

# ナビちゃんのつぶやき (外部ファイル読み込み)

「はじめてみよう! 官公庁編」の補足です。  
ナビちゃんがつぶやいています。

※解説内容がオプションプログラムの説明である  
場合があります。ご了承ください。



ナビちゃんのおつづき  
(外部ファイル読み込み)

01	SXFファイルの読み込み設定	1
	SXFファイルの読み込み設定	1
02	フリーページについて	2
03	DXF/DWGの図面読み込み時のQ&A	4
	①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合	4
	②レイアウト空間を読み込む場合	8
	③モデル空間をフリーページへ読み込む場合	9
	④モデル空間を用紙ページへ読み込む場合	11
	⑤モデル空間しかなく用紙系1/1になっている場合	12
	⑥不要なデータがある場合	13
	⑦複数図面がある場合	14
04	DXF/DWGファイルの読み込み・図面配置設定	17
	DXF/DWGファイルの変換に関する設定	17
	DXF/DWGファイルの読み込み設定	18
	DXF/DWGファイルの図面配置設定	19
05	JWC/JWWファイルの読み込み・図面配置設定	24
	JWC/JWWファイルの読み込み設定	24
	JWC/JWWファイルの図面配置設定	25
06	DXF/DWG読み込みの基本情報	26
07	CADから縮尺設定した時のQ&A	27
08	縦横異縮尺について	28
09	発注図(平面図)を開く	30
10	発注図(横断図)を開く	33



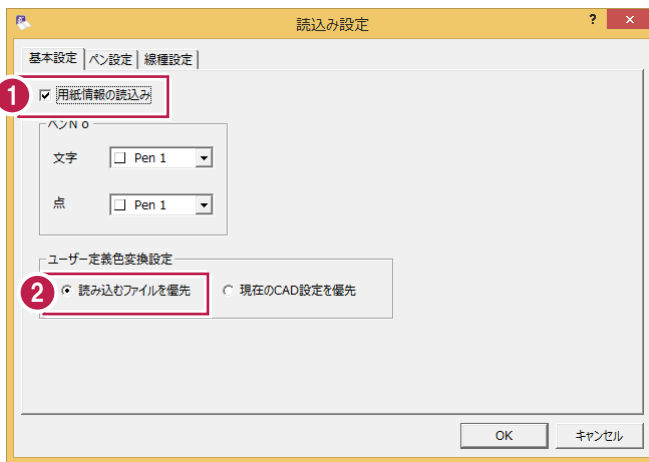
# 01 SXFファイルの読み込み設定

SXFファイルの読み込み設定の詳細を解説します。

## SXFファイルの読み込み設定

[読み込み設定]でSXFファイルの読み込み時の設定を行います。

ただし、SXFファイル読み込み時に[読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、[ファイル]→[外部ファイル設定]の[共通]タブで[「読み込み設定」ダイアログを開く]のチェックをオンにした場合です。(初期値は、オフです。)



1 [基本設定]タブで[用紙情報の読み込み]のチェックをオンにします。

2 [ユーザー定義色変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

3 [ペン設定]タブをクリックします。

4 [線幅変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

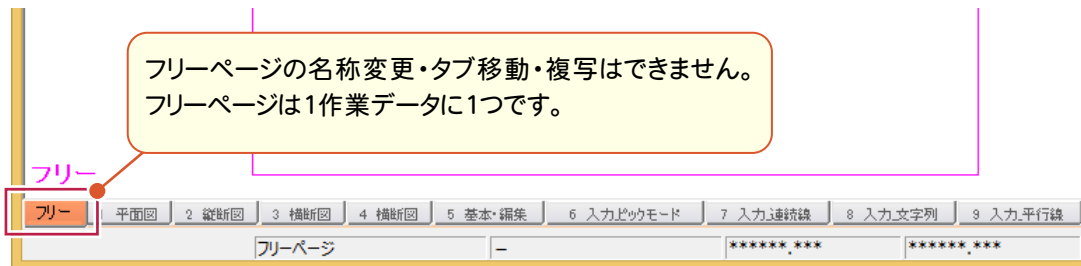
5 [線種設定]タブをクリックします。

6 [ユーザー定義線種変換設定]で、[読み込むファイルを優先]を選択します。

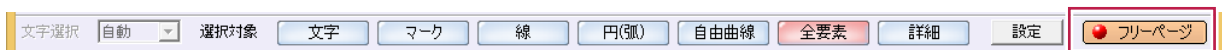
7 [OK]をクリックします。

# 02 フリーページについて

ページタブバーの[フリー]タブをクリックすると、フリーページを表示することができます。  
フリーページでは、用紙枠を意識せずに作業を行うことができます。



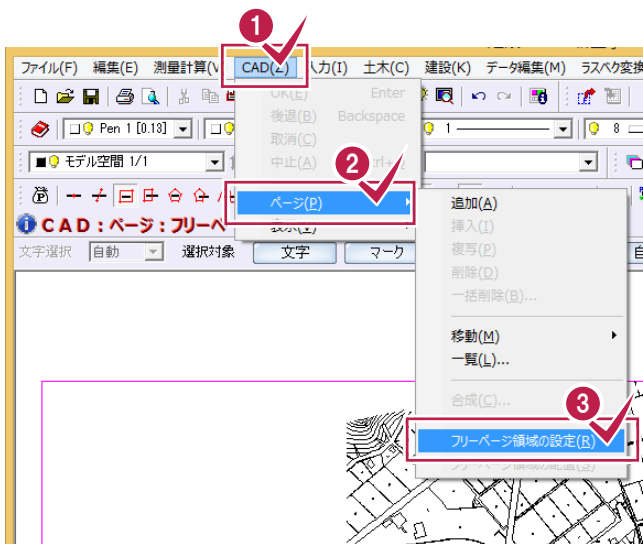
フリーページの表示・非表示は、インプットバーの[フリーページ]で切り替えできます。  
(フリーページでは表示されません。)



**Check**

DXF/DWGのモデル空間をフリーページに読み込むことができます。  
レイアウトのビューポートは、フリーページの配置領域設定として反映されます。  
操作方法は「03 DXF/DWGの図面読み込み時のQ&A」の「①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合」(P.4)  
「③モデル空間をフリーページへ読み込む場合」(P.9)を参照してください。

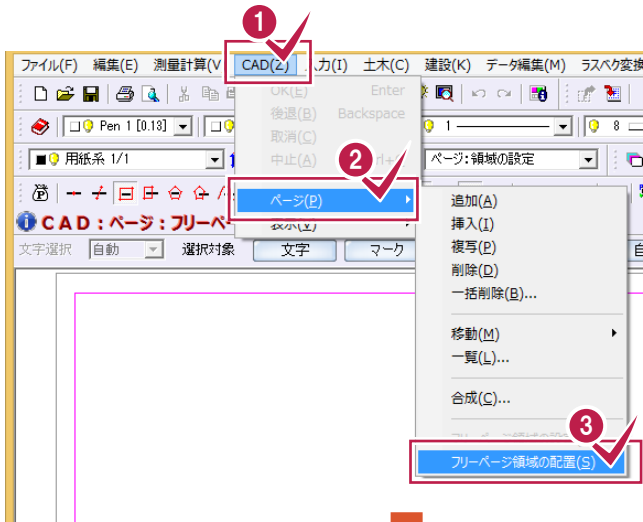
フリーページの[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の設定]で配置領域を設定できます。



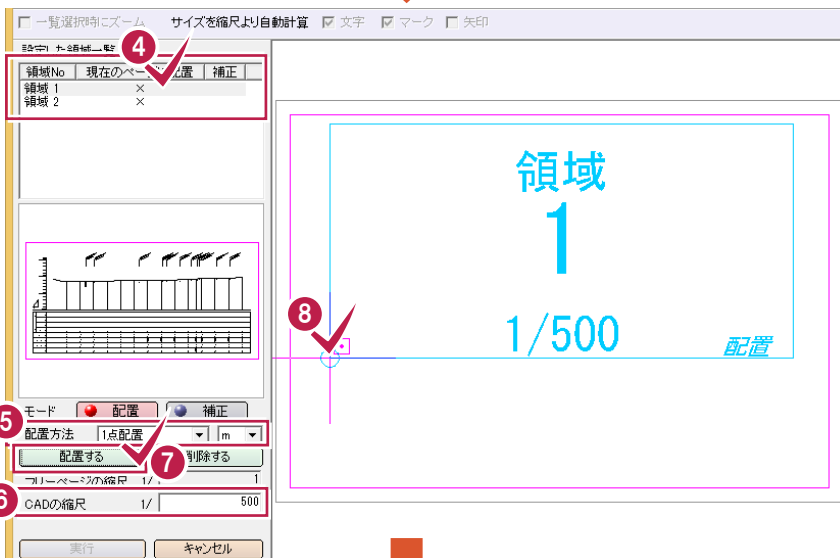
- 1 フリーページの[CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の設定]をクリックします。



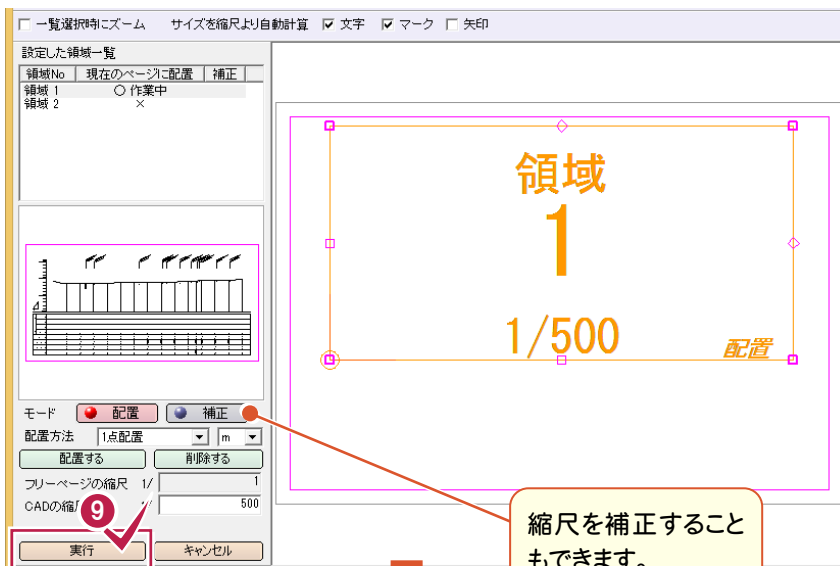
用紙ページの[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の配置]で、フリーページで設定した領域を配置できます。



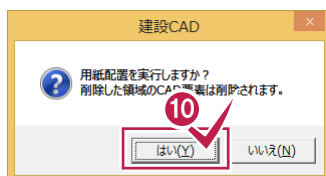
- 1 用紙ページの[CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の配置]をクリックします。



- 4 配置する領域をクリックします。
- 5 配置方法を選択します。
- 6 CADの縮尺を入力します。
- 7 [配置する]をクリックします。
- 8 配置位置をクリックします。



- 9 同様に別の領域も配置できます。配置を終了したら、[実行]をクリックします。



- 10 確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。



# 03 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A

以下のよくある図面パターンの読み込みを解説します。

- ①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合
- ②レイアウト空間を読み込む場合
- ③モデル空間をフリーページへ読み込む場合
- ④モデル空間を用紙ページへ読み込む場合
- ⑤モデル空間しかなく、用紙系 1/1 になっている場合
- ⑥不要なデータがある場合
- ⑥複数図面がある場合

**メモ** モデル空間とレイアウト空間の違いは

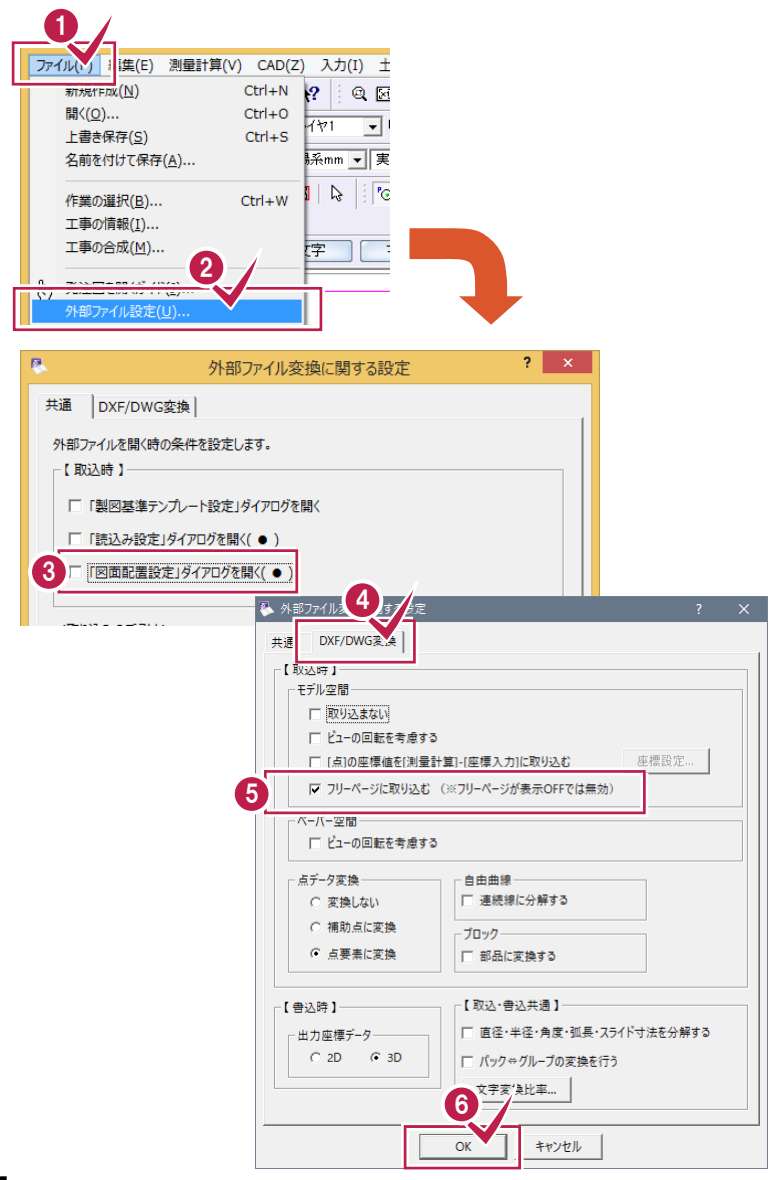
- モデル空間・実寸  
実際の大きさ(実寸)で素面を描く空間で、縮尺の概念がありません。
- レイアウト空間・用紙サイズ  
モデル空間で描かれた図面をビューポートという縮尺にはめ込んで配置したものです。

詳細は「06 DXF/DWG読み込みの基本情報」(P.26)を参照してください。

※読み込み・図面配置設定については、「04 DXF/DWGファイルの読み込み・図面配置設定」(P.17)を参照してください。

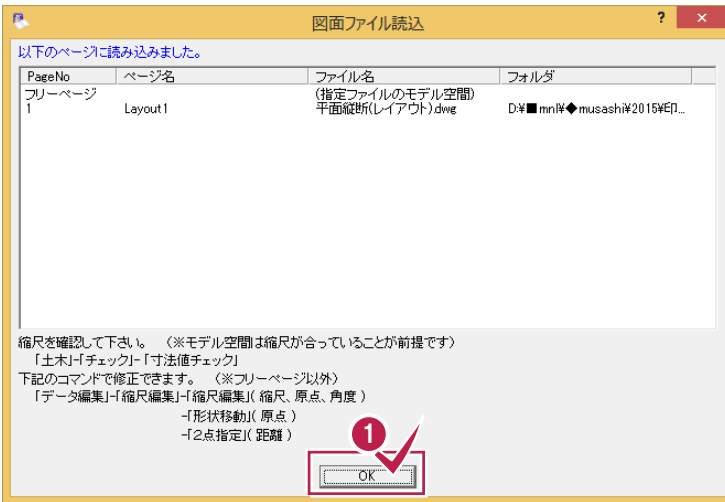
## ①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合

[ファイル] - [外部ファイル設定] で読み込み時の設定を変更します。



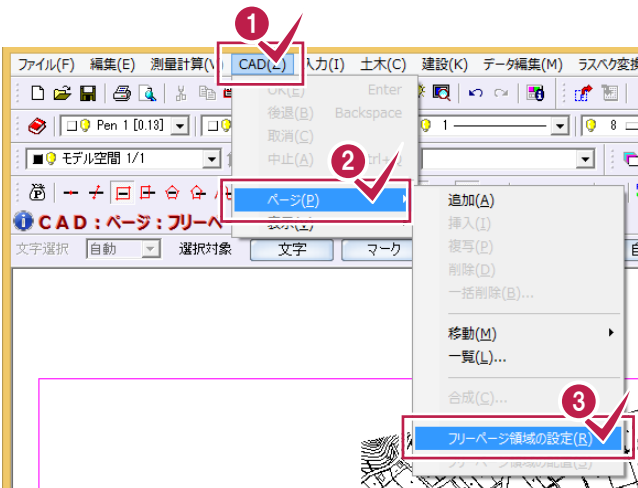
- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 「[図面配置設定]ダイアログを開く」のチェックをオフにします。
- 4 [DXF/DWG変換]タブをクリックします。
- 5 [フリーページに取り込む]のチェックをオンにします。
- 6 [OK]をクリックします。

[ファイル]–[外部ファイルを開く]で図面を開き、モデル空間をフリーページ、レイアウト空間を用紙ページに読み込みます。

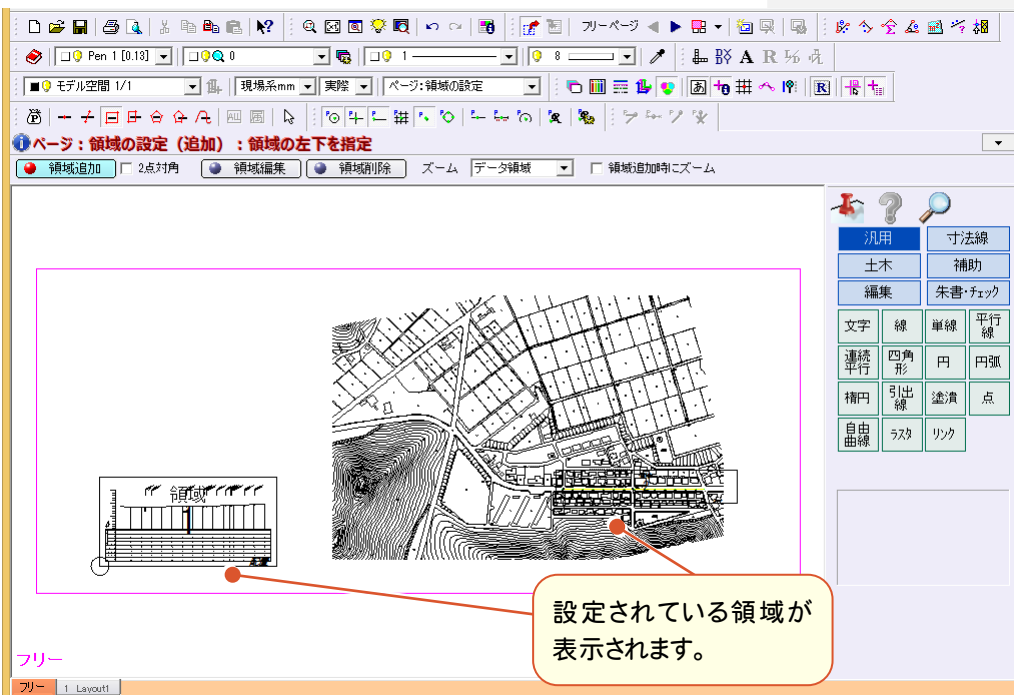


- 1 読み込みが完了すると確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

フリーページにはモデル空間のビューポートが領域として読み込まれます。  
[CAD]–[ページ]–[フリーページ領域の設定]でフリーページの領域を追加・削除できます。



- 1 [CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の設定]をクリックします。

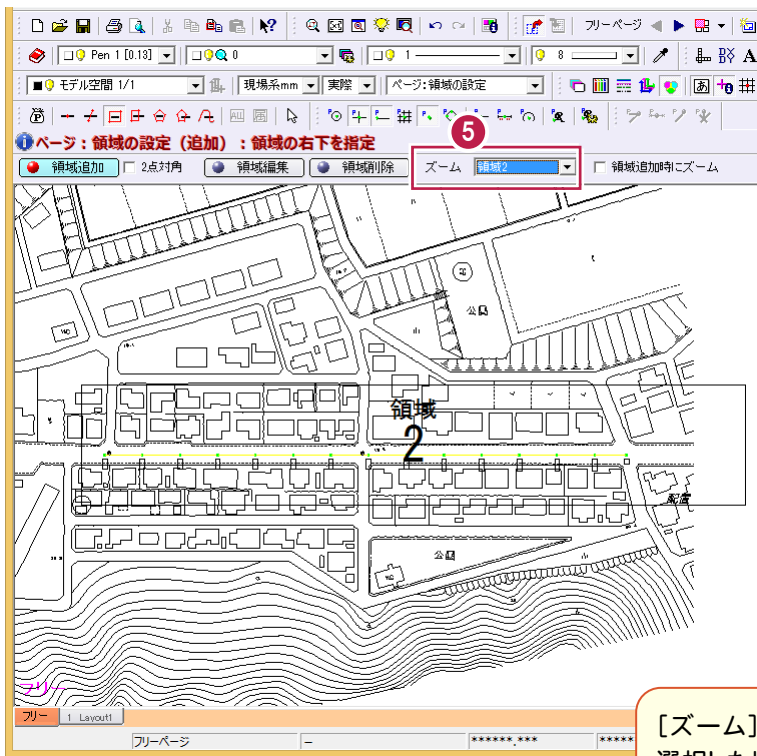


設定されている領域が表示されます。



4 ズームで領域(画面例では「領域1」)を選択すると、領域が画面全体に表示されます。

[ズーム]で「領域1」を選択した場合



5 ズームで領域(画面例では「領域2」)を選択すると、領域が画面全体に表示されます。

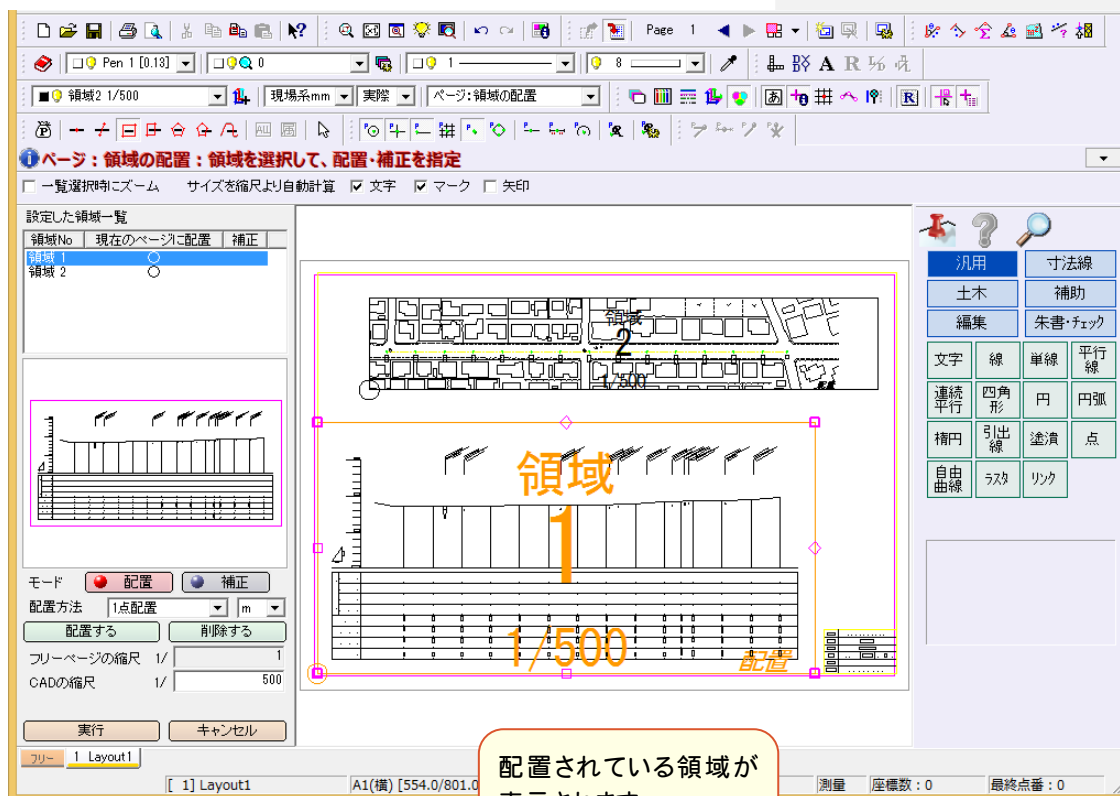
[ズーム]で「領域2」を選択した場合



用紙ページにはレイアウトのビューポートが領域として配置されます。  
[CAD]-[ページ]-[フリーページ領域の配置]でフリーページの領域を配置できます。

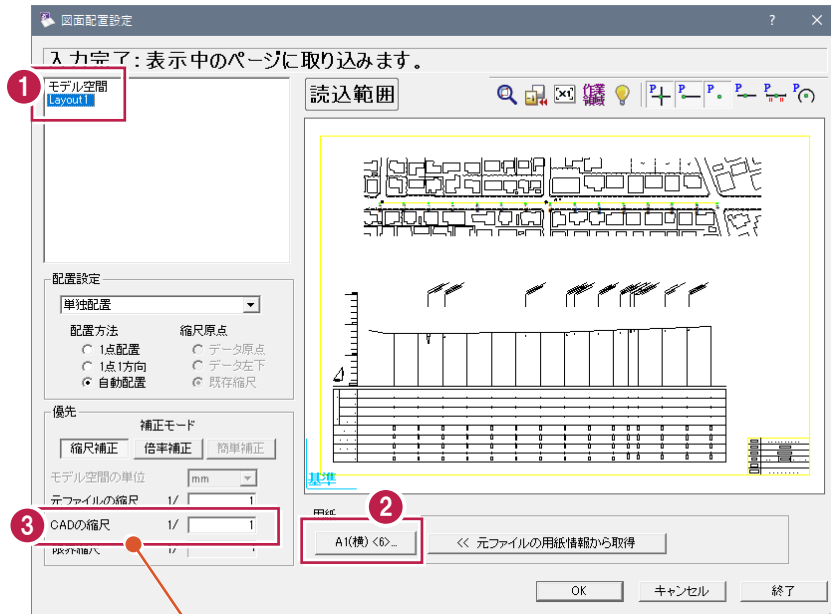


- 1 [CAD]をクリックします。
- 2 [ページ]をクリックします。
- 3 [フリーページ領域の配置]をクリックします。

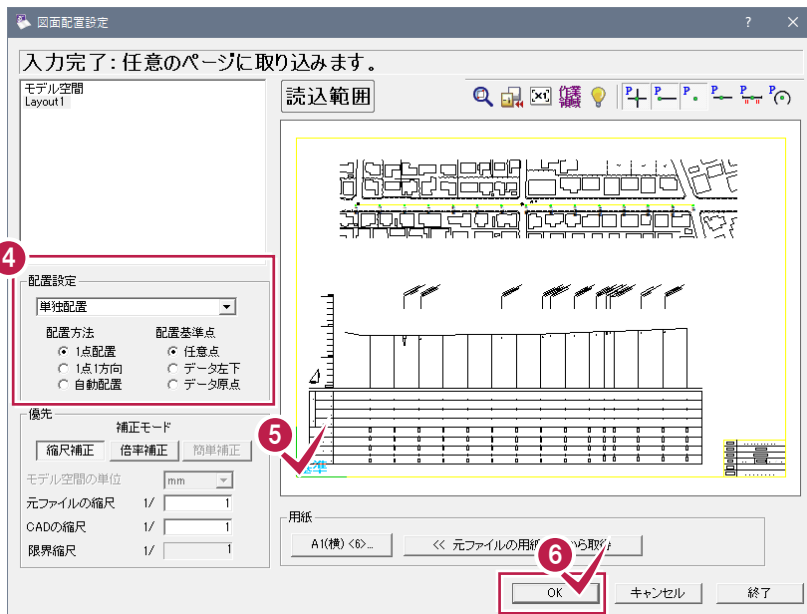


## ②レイアウト空間を読み込む場合

[ファイル]ー[外部ファイル設定]を初期状態([「図面配置設定」ダイアログを開く]のみオン)に戻して、  
[ファイル]ー[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。

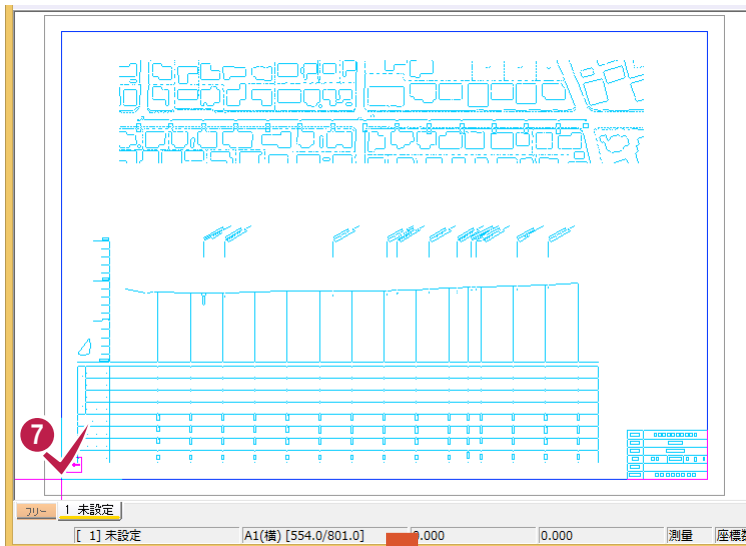


※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面はレイアウト空間でA1(横)の用紙サイズで  
描かれた図面ということになります。

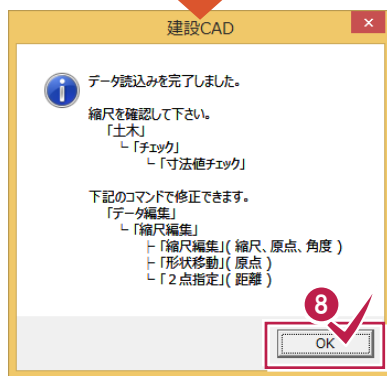


- 1 レイアウト空間を選択します。
- 2 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。
- 3 自動計算された[CADの縮尺]を  
確認します。

- 4 「単独配置」を選択して[配置方法]で  
「1点配置」、[配置基準点]で「任意  
点」を選択します。
- 5 基準点をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。



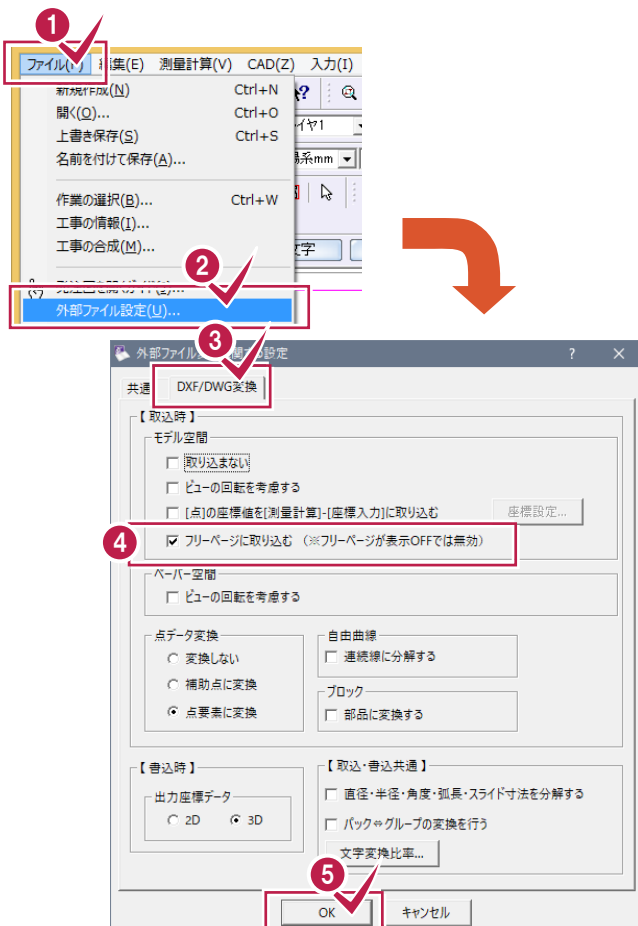
- 7 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



- 8 [OK]をクリックします。

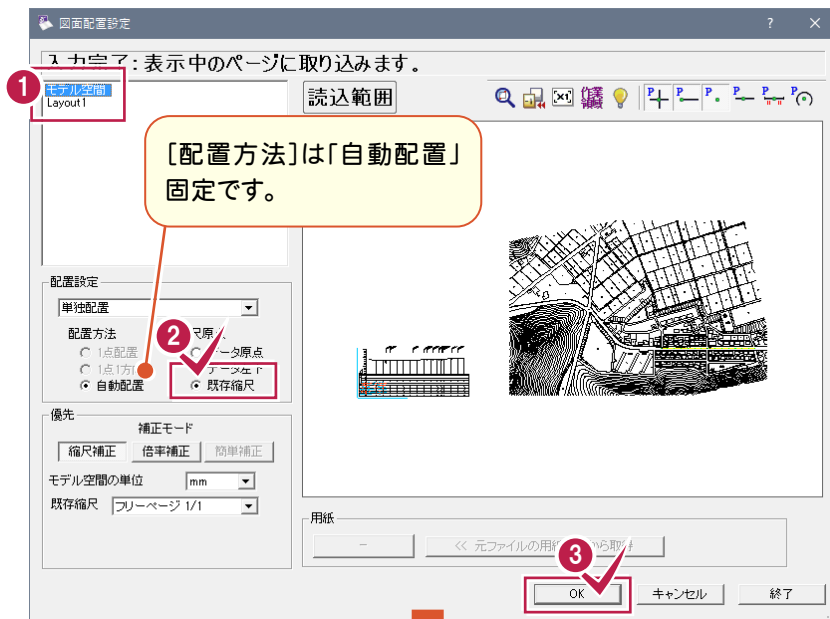
### ③モデル空間をフリーページへ読み込む場合

[ファイル]—[外部ファイル設定]で読み込み時の設定を変更します。

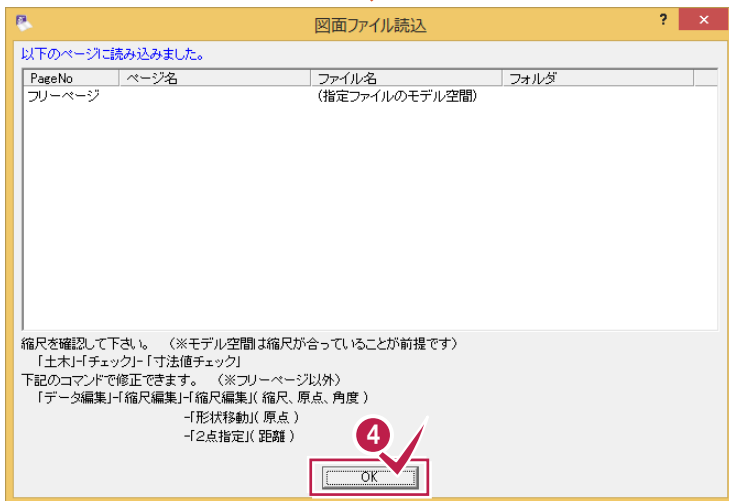


- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 [DXF/DWG変換]タブをクリックします。
- 4 [フリーページに取り込む]のチェックをオンにします。
- 5 [OK]をクリックします。

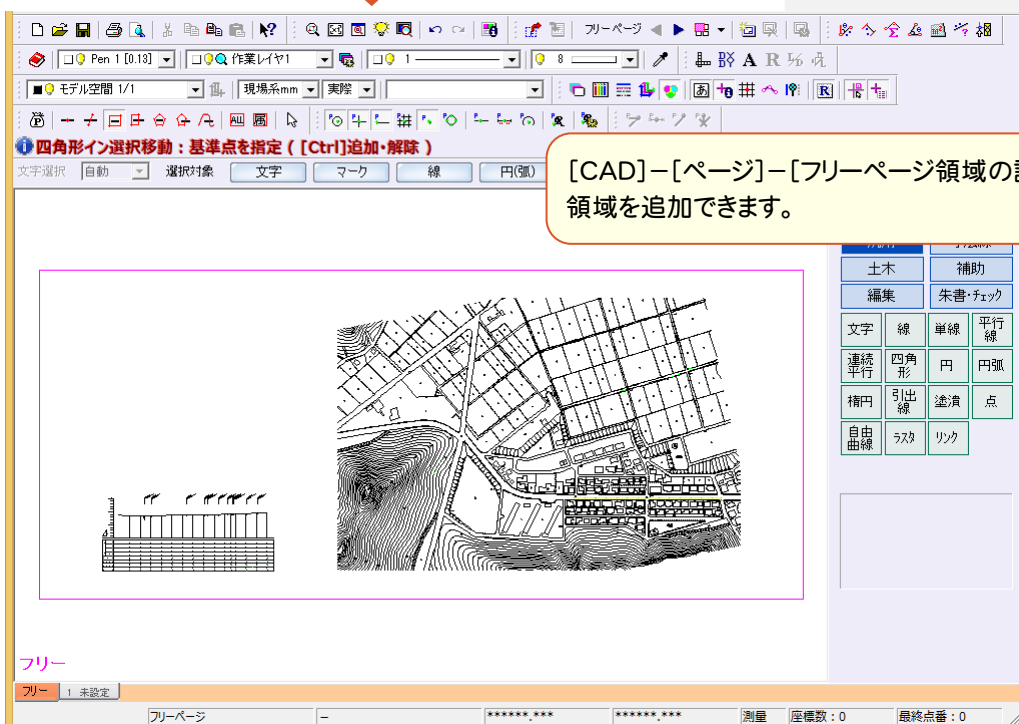
[ファイル]-[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



- 1 モデル空間を選択します。
- 2 [縮尺原点]で[既存縮尺]を選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

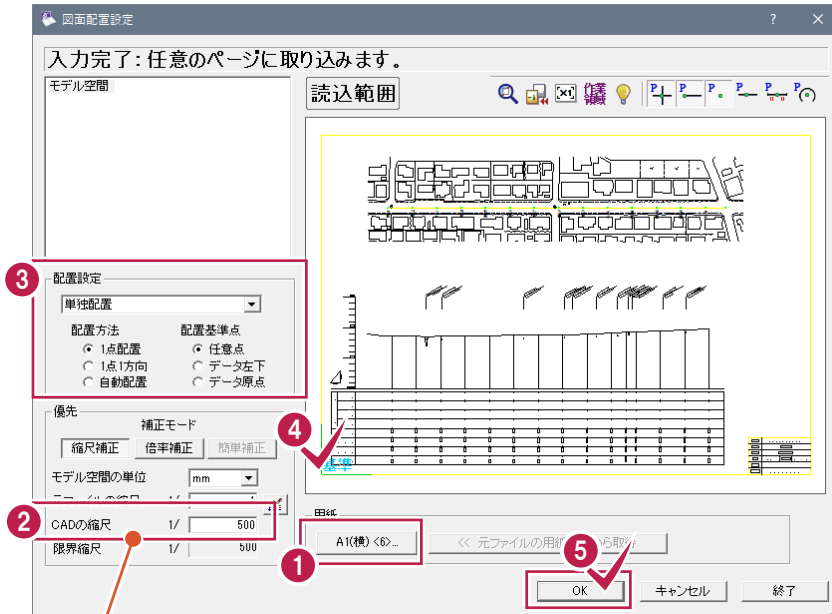


- 4 [OK]をクリックします。



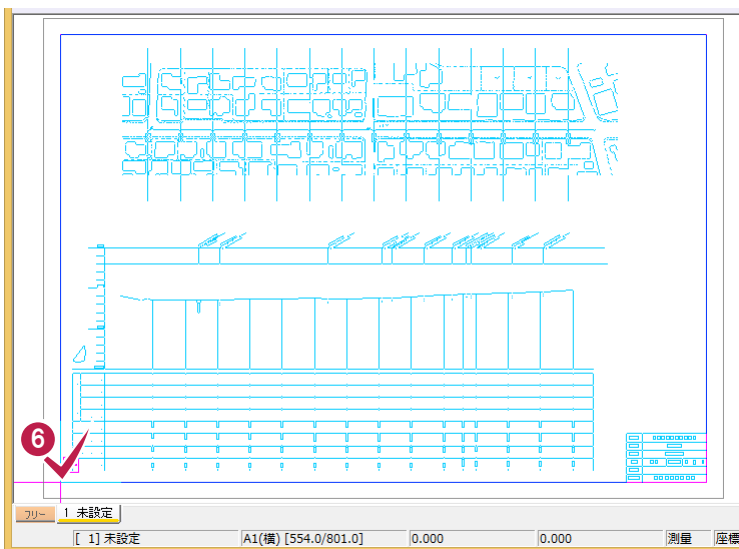
## ④モデル空間を用紙ページへ読み込む場合

[ファイル]—[外部ファイル設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。

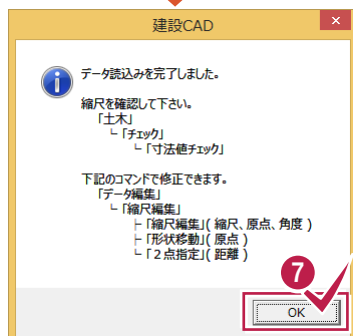


- 1 用紙のボタンをクリックして、用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]を設定します。
- 2 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。
- 3 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 4 基準点をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/500となるので、  
この図面はモデル空間に実寸で描かれた図面ということになります。



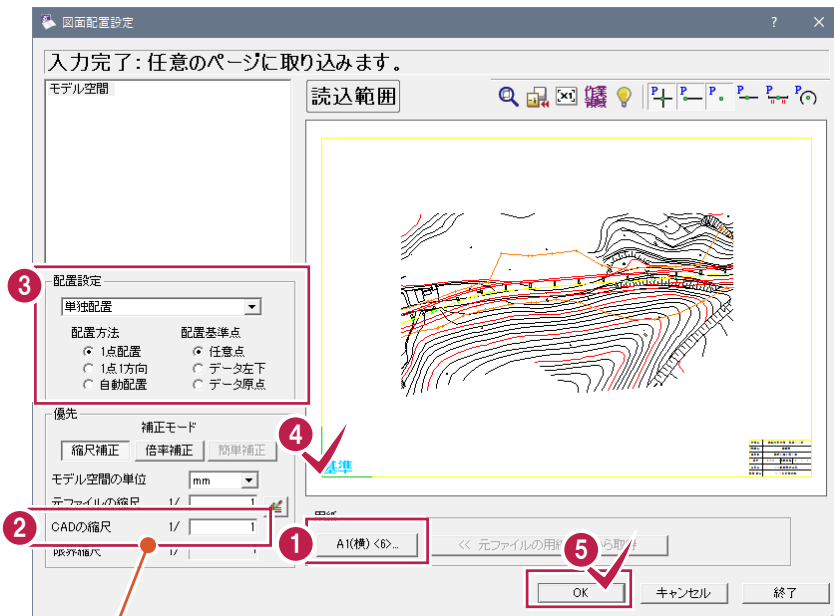
- 6 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



- 7 [OK]をクリックします。

## ⑤モデル空間しかなく用紙系 1/1になっている場合

[ファイル]—[外部ファイル設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



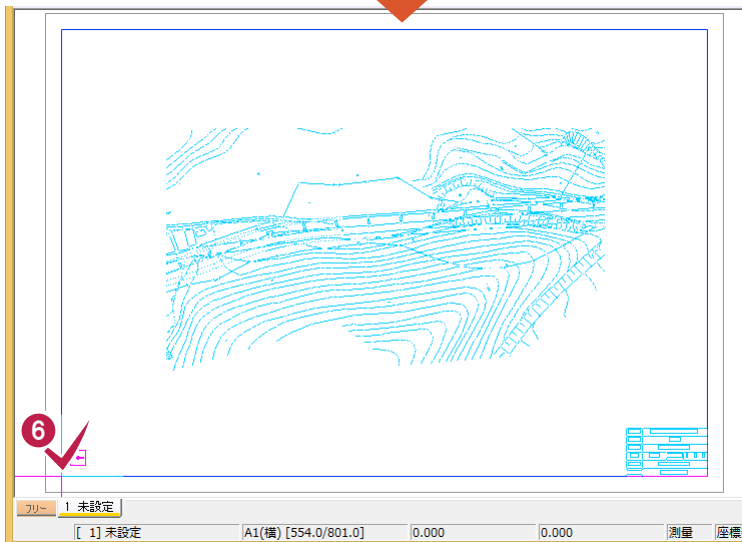
- 1 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。
- 2 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。
- 3 「単独配置」を選択して[配置方法]で「1点配置」、[配置基準点]で「任意点」を選択します。
- 4 基準点をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面は**モデル空間でA1(横)の用紙サイズになっている図面**ということになります。

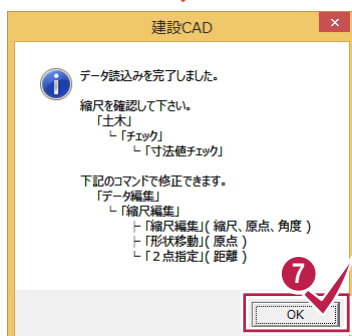
メモ

### モデル空間で用紙系 1/1 になっている図面とは

AutoCADで作図する場合、モデル空間では基本的に実寸で描かれています。その後、武蔵など他社メーカーCADとやり取りする際にDXF/DWGに変換しますが、AutoCAD以外のCADにはモデル空間がないため、図面を用紙系1/1に変換して読み込みます。一度用紙系1/1になってしまった図面をDXF/DWGに変換すると、モデル空間が用紙系1/1になった図面ができます。



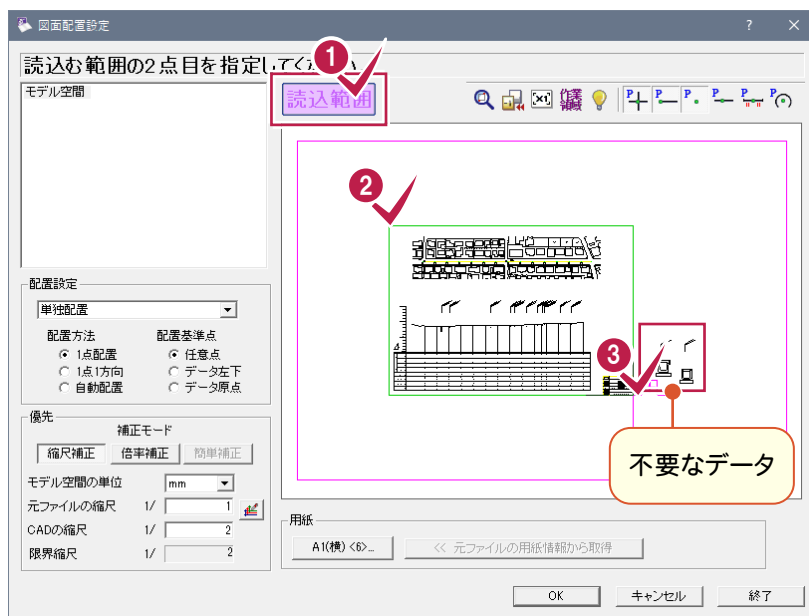
- 6 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



- 7 [OK]をクリックします。

## ⑥ 不要なデータがある場合

[ファイル]—[外部ファイル設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。



1 [読み込む範囲]をクリックします。

2 3

読み込む図面の範囲を指定します。

[読み込む範囲]で指定した  
モデル空間(部)が追加  
されます。

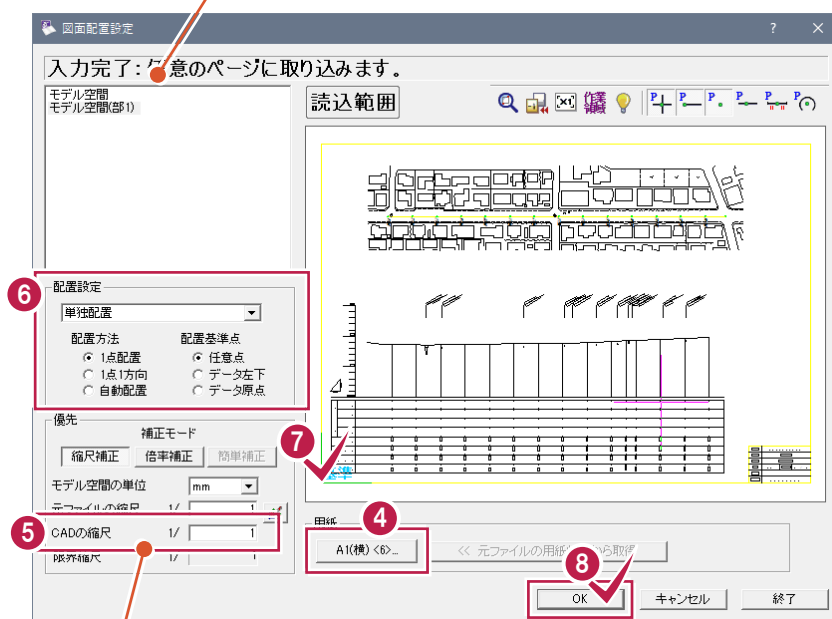
4 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

5 自動計算された[CADの縮尺]を確認  
します。

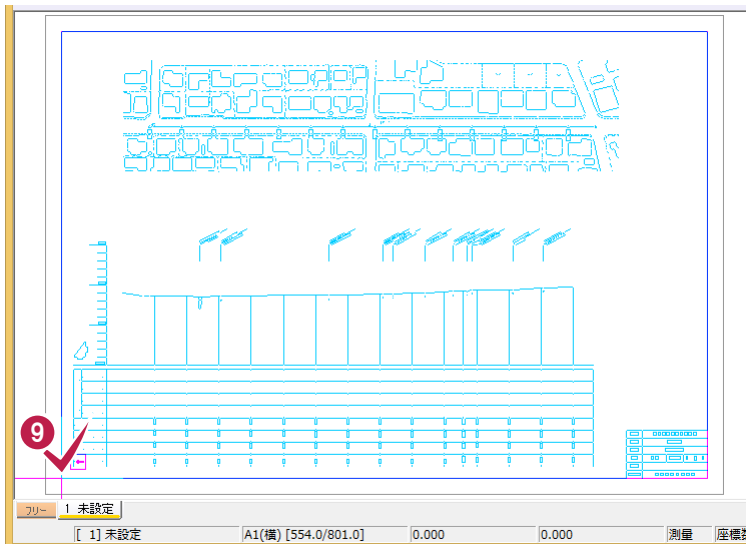
6 「単独配置」を選択して[配置方法]で  
「1点配置」、[配置基準点]で「任意  
点」を選択します。

7 基準点をクリックします。

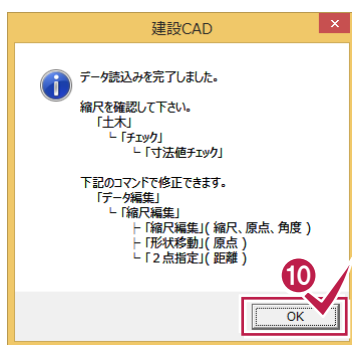
8 [OK]をクリックします。



※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面はモデル空間でA1(横)の用紙サイズに  
なっている図面ということになります。



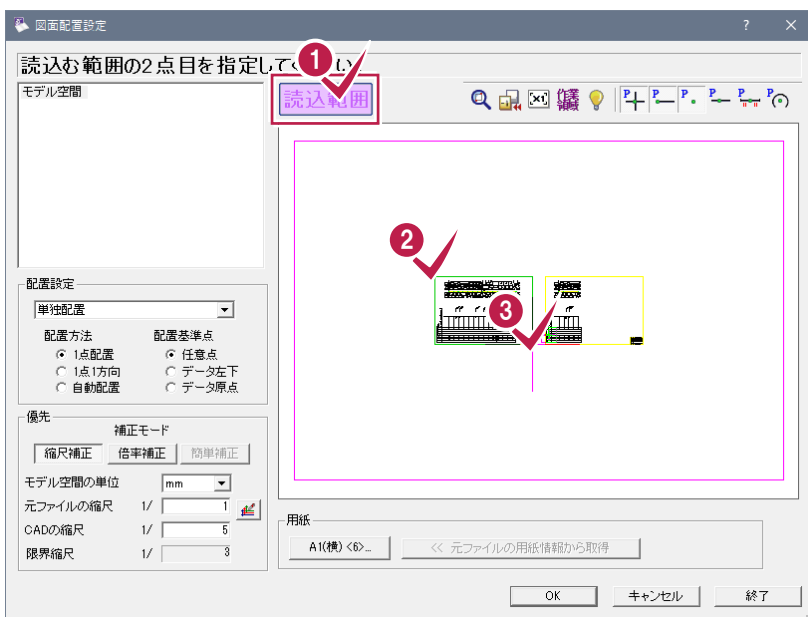
9 用紙枠の左下角に合わせてクリックします。



10 [OK]をクリックします。

## ⑦複数図面がある場合

[ファイル]—[外部ファイル設定]を初期状態に戻して、[ファイル]—[外部ファイルを開く]で図面を開き、[図面配置設定]へ進みます。

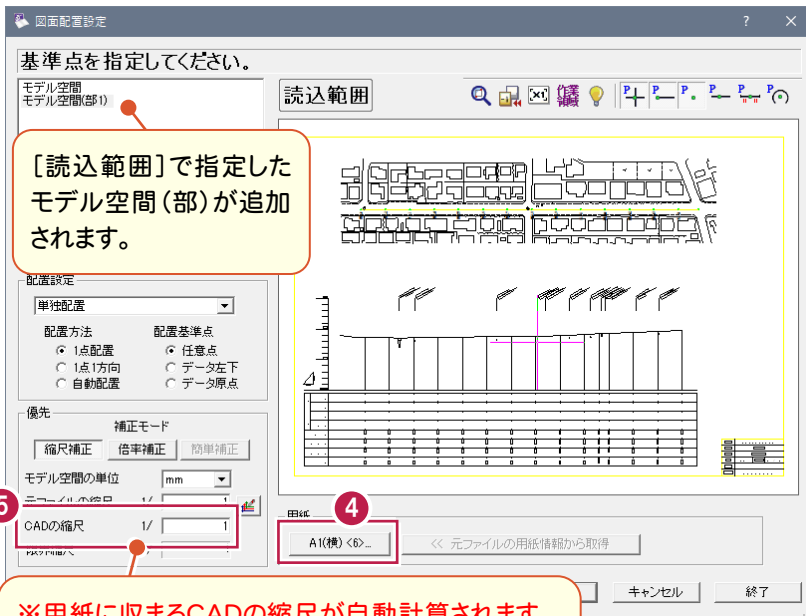


1 [読み込範囲]をクリックします。

2 3  
1つ目の図面の範囲を指定します。





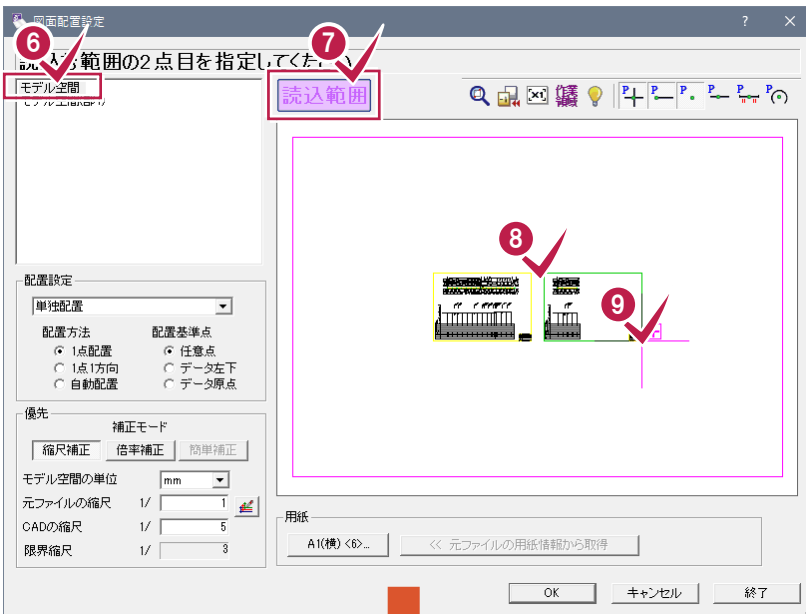


[読み範囲]で指定したモデル空間(部)が追加されます。

4 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

5 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。

※用紙に収まるCADの縮尺が自動計算されます。  
[元ファイルの縮尺]: 1/1  
[CADの縮尺]: 1/1となるので、  
この図面はモデル空間でA1(横)の用紙サイズになっている図面ということになります。



6 「モデル空間」をクリックします。

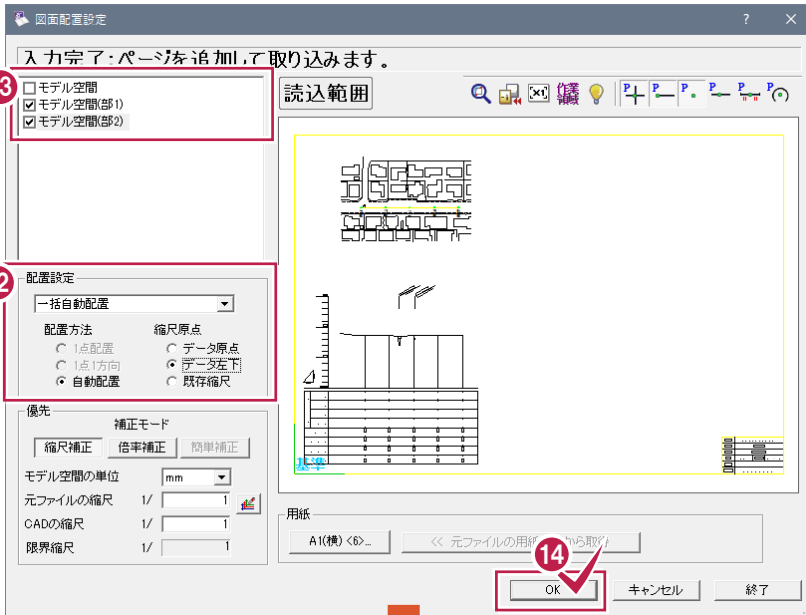
7 「読み範囲」をクリックします。

8 9  
2つ目の図面の範囲を指定します。

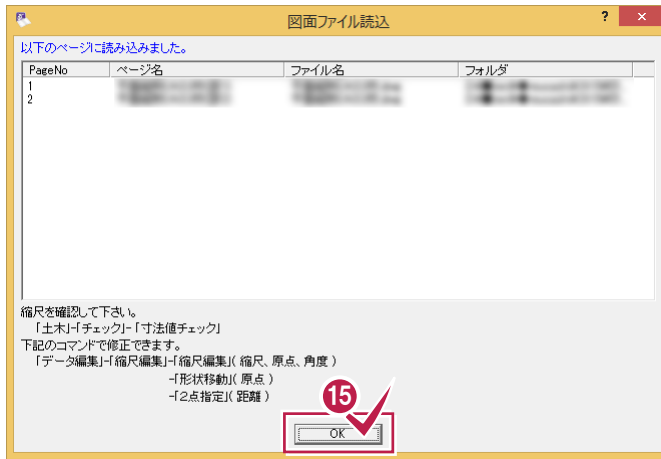


10 用紙を設定します。  
ここでは[A1(横)]にします。

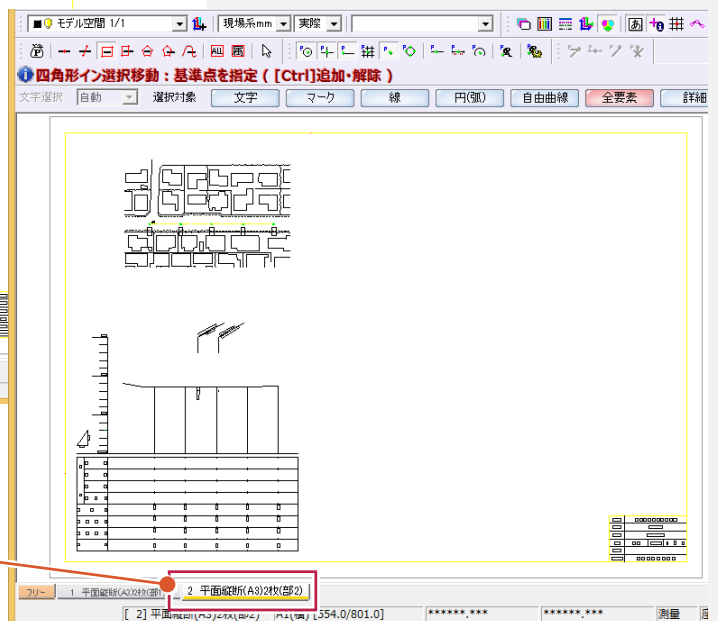
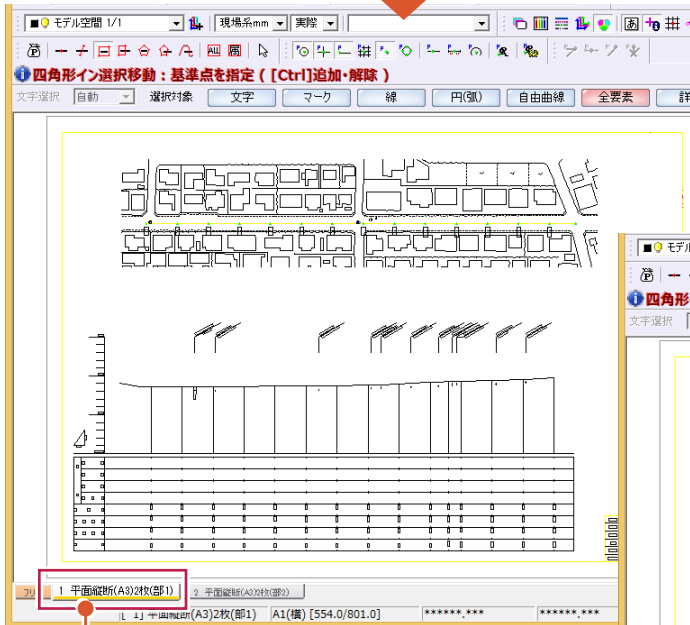
11 自動計算された[CADの縮尺]を確認します。



- 12 「一括自動配置」を選択して、[縮尺原点]で「データ左下」をクリックします。
- 13 配置する図面のチェックをオンにします。
- 14 [OK]をクリックします。



- 15 読み込まれたページなどを確認して、[OK]をクリックします。



指定した1つ目の図面と2つ目の図面が自動配置されます。

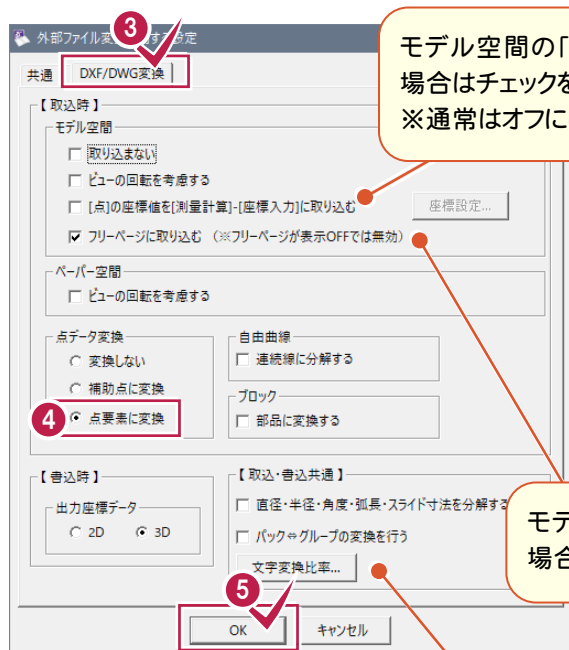
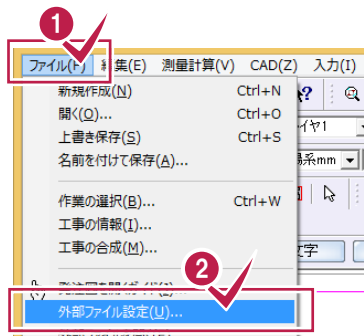


## 04 DXF/DWG ファイルの読み込み・図面配置設定

DXF・DWGファイルの変換に関する設定、読み込み・図面配置設定の詳細を解説します。

### DXF/DWGファイルの変換に関する設定

[ファイル]–[外部ファイル設定]の[DXF/DWG変換]タブで、DXF/DWGファイルの変換に関する設定を行います。



モデル空間の「点」を座標登録する場合はチェックをオンにします。  
※通常はオフにします。

モデル空間をフリーページに取り込む場合はチェックをオンにします。

文字サイズの比率を変えることができます。

- TrueTypeフォント→Windowsで通常使われているフォント
  - ベクトルフォント→AutoCADでよく使われているフォント
- ※武蔵に取り込むときは、FCフォントに変換されます。

- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [外部ファイル設定]をクリックします。
- 3 [DXF/DWG 変換]タブをクリックします。
- 4 [点要素に変換]を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

メモ

モデル空間、レイアウト、ビューポートとは

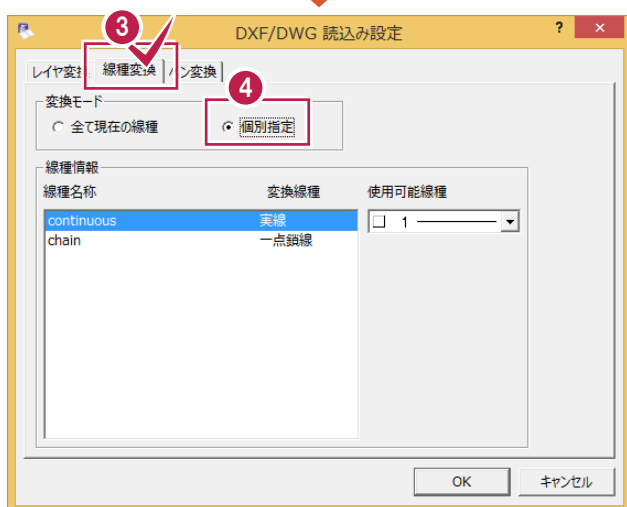
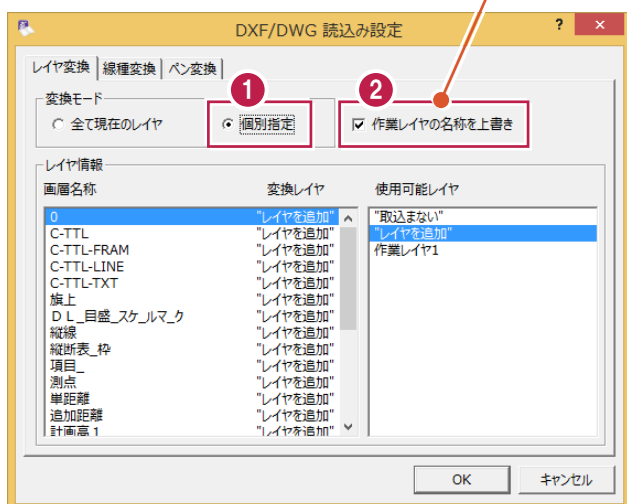
詳細は「06 DXF/DWG 読み込みの基本情報」(P.26)を参照してください。

## DXF/DWGファイルの読み込み設定

[DXF/DWG読み込み設定]でDXF/DWGファイルの読み込み時の設定を行います。

ただし、DXF/DWGファイル読み込み時に[DXF/DWG読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、[ファイル]-[外部ファイル設定]の[共通]タブで[「読み込み設定」ダイアログを開く]のチェックをオンにした場合です。(初期値は、オフです。)

チェックをオンにすると、画層名称で作業レイヤの名称を上書きできます。



- 1 [個別指定]を選択します。
- 2 [作業レイヤの名称を上書き]のチェックをオンにします。  
元ファイルで定義された画層を、武蔵ではどのレイヤに割り当てるかを決めます。  
※[製図基準テンプレート設定]を行った場合は、[レイヤ変換]タブが表示されません。

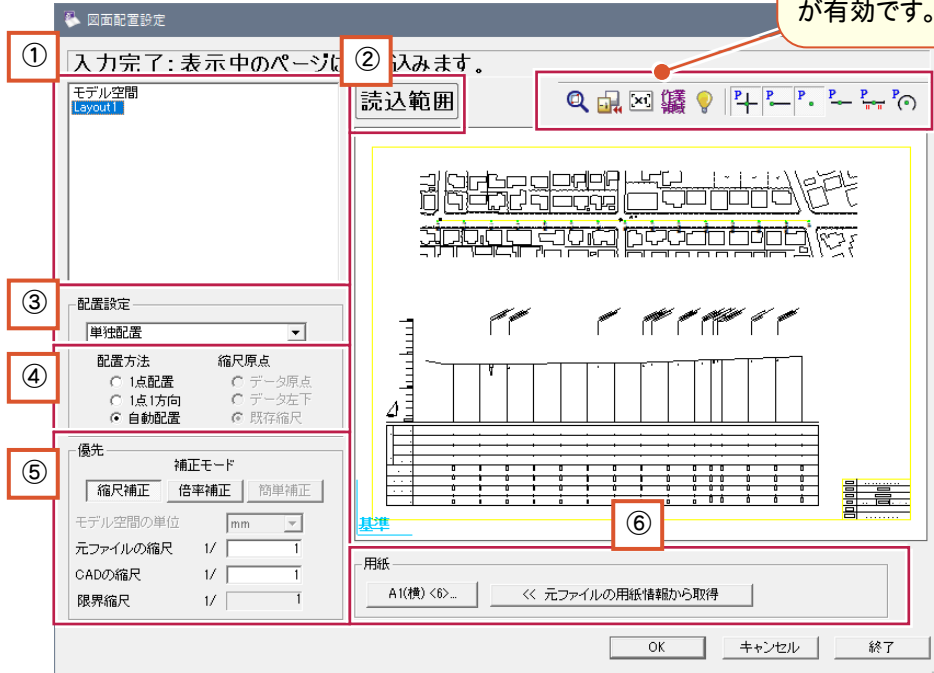
- 3 [線種変換]タブをクリックします。
- 4 [個別指定]を選択します。  
元ファイルで定義された線種を、武蔵ではどの線種に割り当てるかを決めます。  
「点線のはずのデータが実線として取り込まれた」などの症状が出た場合は、ここを確認してみましょう。

- 5 [ペン変換]タブをクリックします。
- 6 [線幅]を選択します。  
※データによっては[個別指定]にした方がよい場合があります。
- 7 [OK]をクリックします。

## DXF/DWGファイルの図面配置設定

[図面配置設定]で、図面の配置方法、縮尺などを設定します。

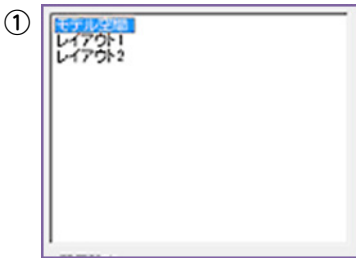
用紙の角や、図枠の角をつかむときに「ピックモード」が有効です。



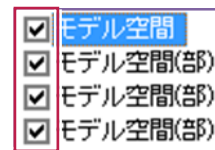
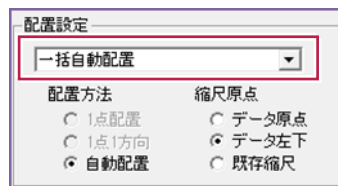
メモ

モデル空間、レイアウト、ビューポートとは

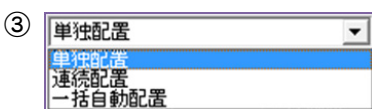
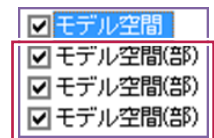
詳細は「06 DXF/DWG 読み込みの基本情報」(P.26)を参照してください。



① 取り込むレイアウト・モデル空間、あるいは読み込み範囲を選択します。配置設定で「一括自動配置」が選択されている場合は、チェックボックスが表示されます。一括配置する図面のチェックをオンにします。



② **読み込み範囲** 複数枚データがある場合、または範囲外に不要なデータがある場合、読み込み範囲を指定します。  
※[読み込み範囲]を指定した図面は“(部)”が付加されます。  
操作は、「03 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A」(P.4)を参照してください。



③ 配置を選択します。

[単独配置]: 選択したモデル空間またはレイアウトを配置してコマンドを終了します。

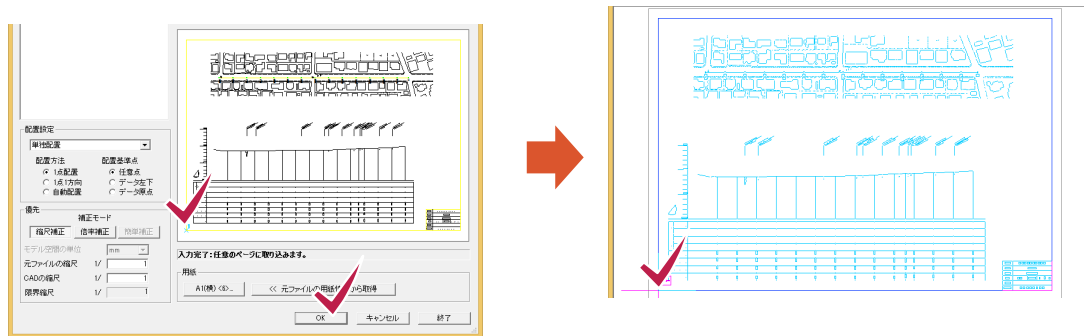
[連続配置]: 選択したモデル空間またはレイアウトを配置後、このダイアログに戻り連続配置します。ページを追加して、別ページへの配置も可能です。

[一括自動配置]: チェックをオンにしたモデル空間またはレイアウトを自動配置します。レイアウト 1、レイアウト 2...の順で、新規ページを追加して配置します。

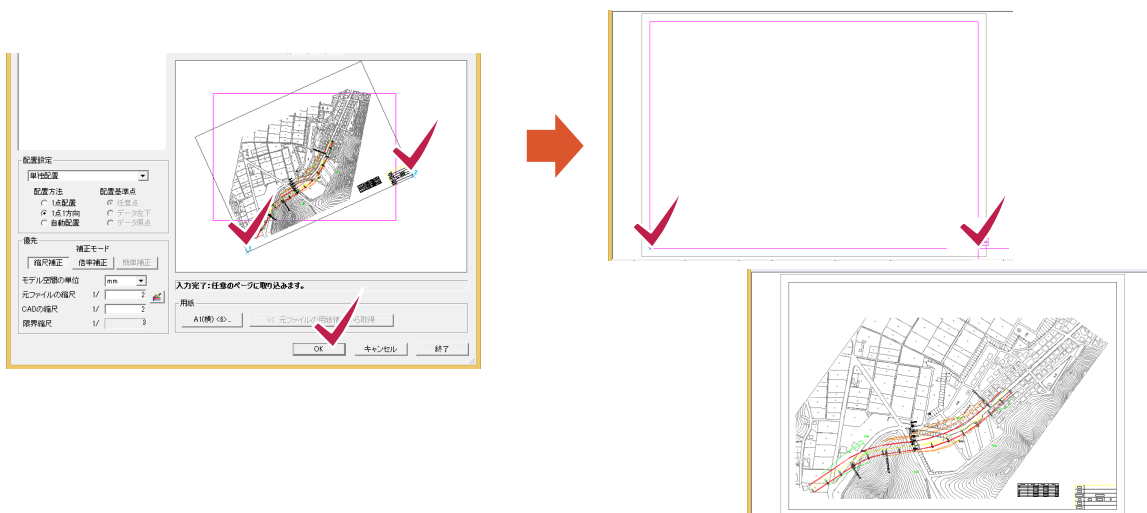
④ 配置方法 配置基準点 配置方法、配置基準点を選択します。

- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 1点配置 | <input checked="" type="radio"/> 任意点 |
| <input type="radio"/> 1点1方向           | <input type="radio"/> データ左下          |
| <input type="radio"/> 自動配置            | <input type="radio"/> データ原点          |

[1点配置]: [配置基準点]で配置基準点1点の指定方法を選択します。



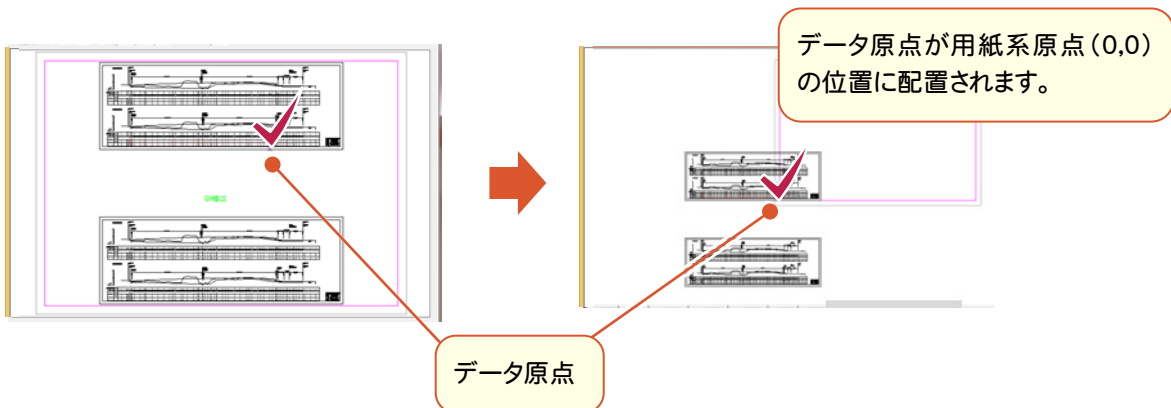
[1点1方向]: 図面に回転をかけて配置する場合に選択します。[配置基準点]で回転の中心となる基準点、2点目のクリックで回転方向をクリックします。



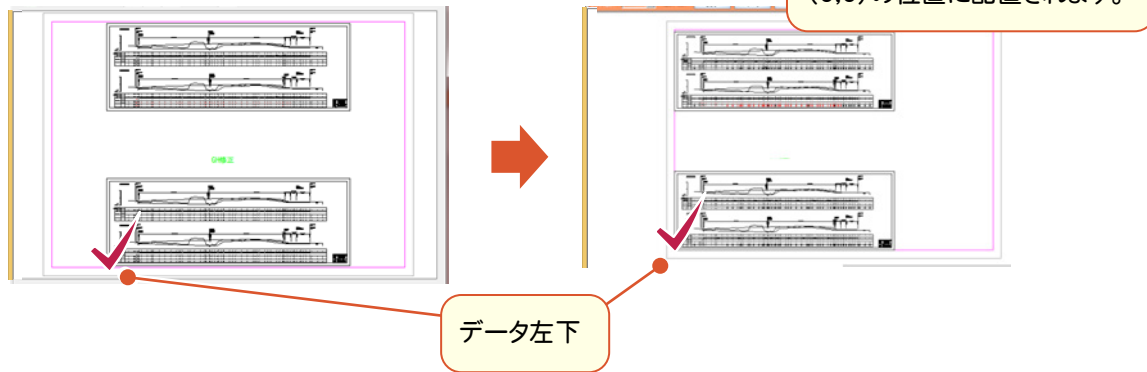
[自動配置]: 【モデル空間の図面を選択した場合】は、[縮尺原点]で配置基準点を設定します。用紙系原点(0,0)の位置にデータ原点・データ左下がくるように配置、あるいは既存縮尺にデータを配置します。

【レイアウトの図面を選択した場合】は、印刷範囲枠(灰色線)左下の位置にレイアウトの用紙左下の位置がくるように配置します。

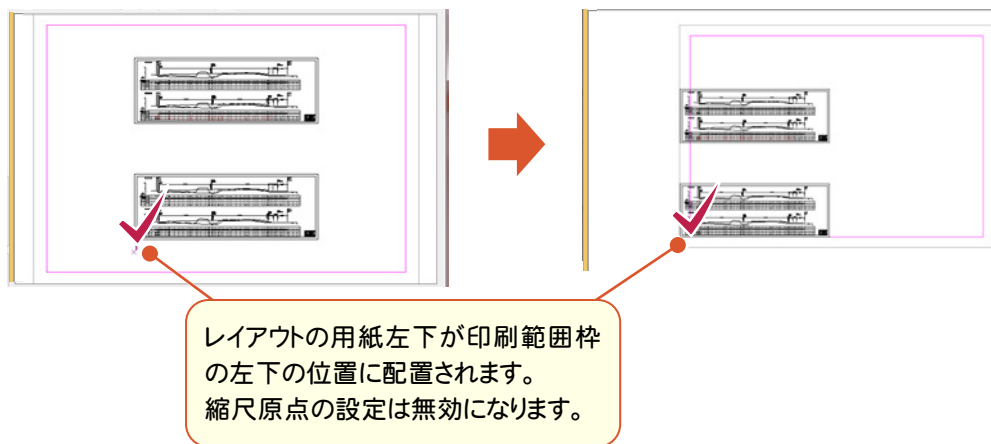
【モデル空間を選択】+縮尺原点: データ原点



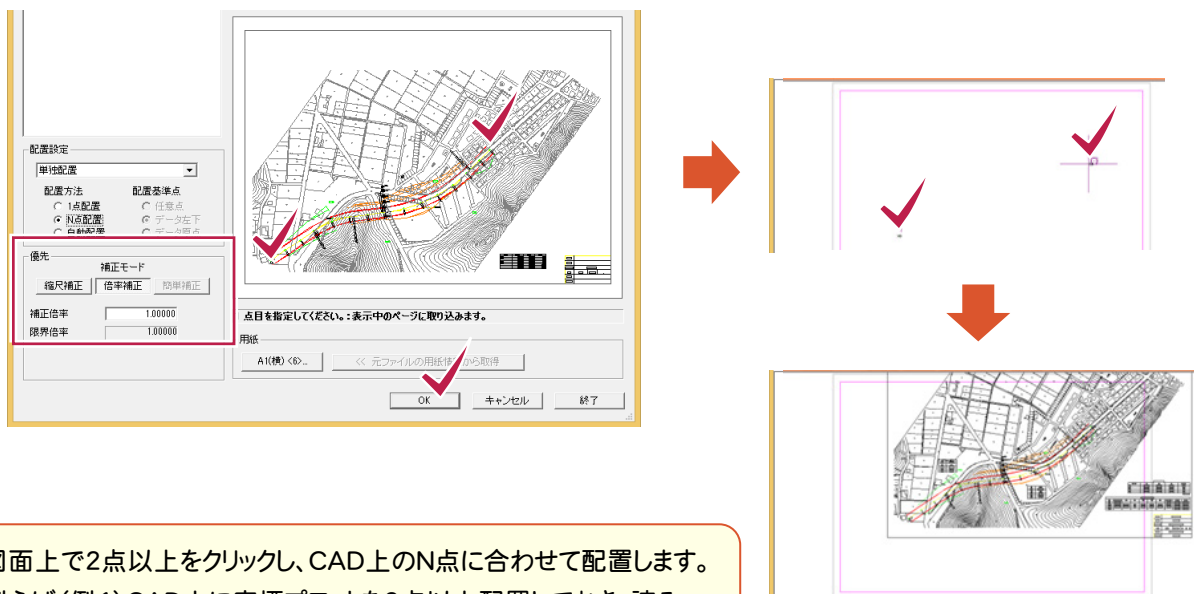
【モデル空間を選択】+縮尺原点:データ左下



【レイアウト空間を選択】+縮尺原点:選択不可



【N点配置】:補正モードが[倍率補正]の場合に有効になります。



図面上で2点以上をクリックし、CAD上のN点に合わせて配置します。  
例えば(例1)CAD上に座標プロットを2点以上配置しておき、読み込んだ図面で座標プロットと同じ点を指定して合わせて配置します。  
(例2)読み込んだ図面に寸法線などがあった場合に、あらかじめCAD上に寸法線と同じ長さの線を入力しておき、N点配置で寸法線の端2点と、CAD上の線の端2点を合わせて配置します。

⑤

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正

モデル空間の単位

元ファイルの縮尺 1/

CADの縮尺 1/

限界縮尺 1/

補正モードで「縮尺補正」または「倍率補正」を選択して、縮尺または倍率を設定します。印刷尺度が設定された図面の場合は「簡単補正」で設定することもできます。

### 縮尺補正の場合(レイアウト)

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正

モデル空間の単位

元ファイルの縮尺 1/

CADの縮尺 1/

限界縮尺 1/

レイアウトが存在する場合、縮尺は「1/1」でOKです。

用紙系 1/1

用紙系 1/1

ビューポート1 1/500

ビューポート2 1/500

< 詳細設定 >

### 縮尺補正の場合(モデル空間)

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正


モデル空間の単位

元ファイルの縮尺 1/

CADの縮尺 1/

限界縮尺 1/

モデル空間の単位「mm」、元ファイルの用紙サイズを設定すると、CADの縮尺が「〇〇分の1」のように設定されます。

 「縮尺計測」で図面内の寸法を参考にして縮尺を求めることもできます。

用紙系 1/1

用紙系 1/1

モデル空間 1/500

< 詳細設定 >

### 倍率補正の場合

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正

補正倍率

限界倍率

元図面を1としたとき、現在設定されている用紙サイズに収まる倍率(限界倍率)を考慮して、補正倍率を設定して読み込みます。

元図面が実寸でなく、印刷サイズで作成された図面の場合は「1」でOKです。

### 簡単補正の場合(縮尺を優先)

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正

図面の縮尺を維持する [ 1/100 ]

縮尺を調節して用紙に収める

図面の縮尺を維持して読み込みます。

### 簡単補正(用紙を優先)

優先

補正モード

縮尺補正  倍率補正  簡単補正

図面の縮尺を維持する [ 1/100 ]

縮尺を調節して用紙に収める

図面の縮尺を調節し用紙に収まるように補正して読み込みます。





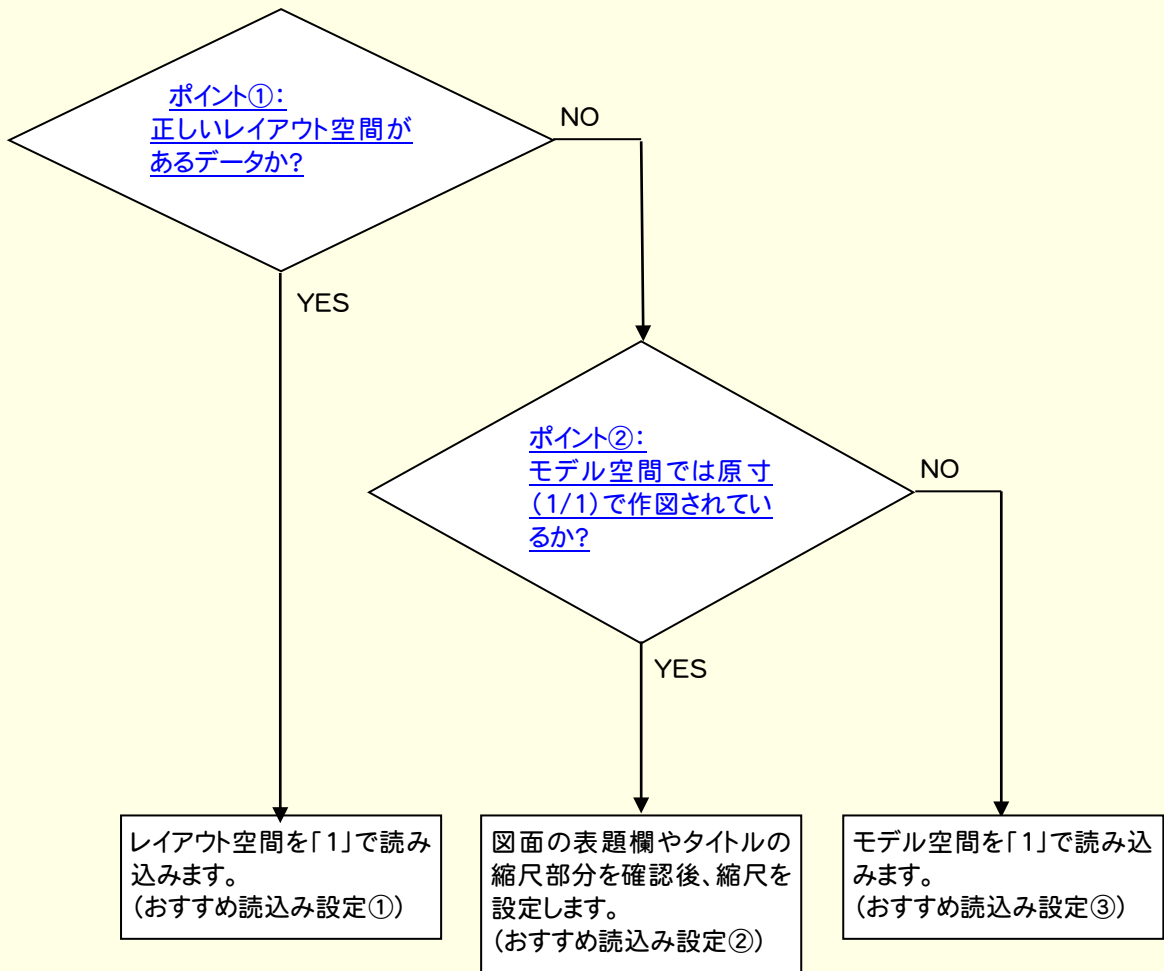
[用紙設定]ボタン: ボタン名称が現在設定されている用紙になります。ボタンをクリックして表示される[用紙設定]ダイアログで用紙を選択します。

[元ファイルの用紙情報から取得]ボタン: モデル空間の図面を選択した場合は、この設定は無効です。レイアウトの図面を選択した場合、レイアウト情報から取得したサイズから用紙設定に登録してあるサイズ(用紙サイズ+オフセット)が同一である用紙を取得するときは、ボタンをクリックします。レイアウト情報から取得したサイズと用紙設定に登録してあるサイズと合うものがない場合は無効です。

## Check

### DXF/DWGデータの読み込みのポイント

DXF/DWGデータは作成するソフトウェア、作成する人によってデータ形式が異なります。



#### おすすめの読み込み設定 (縮尺補正の場合)

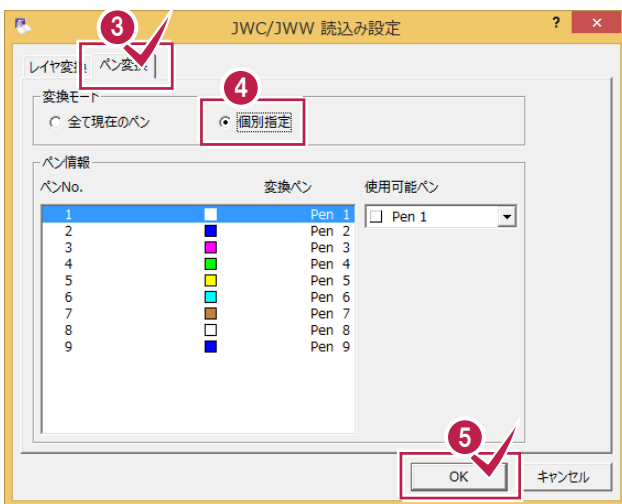
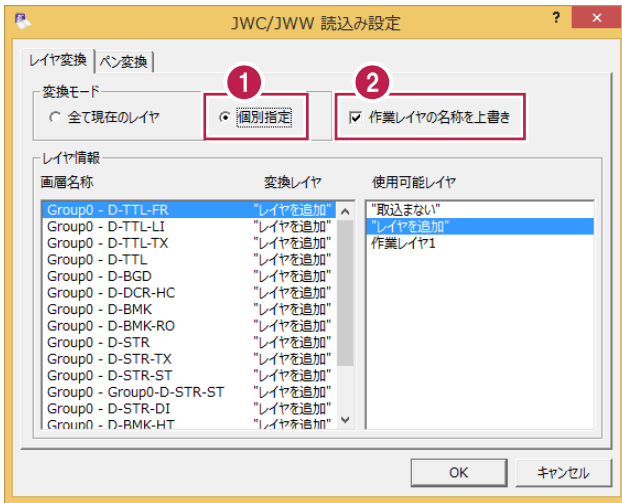
	元ファイルの縮尺	CADの縮尺
①レイアウト	1	1
②モデル空間(印刷サイズ)	1/*	1/*
③モデル空間(実寸)	1	1/*

# 05 JWC/JWW ファイルの読み込み・図面配置設定

JWC・JWWファイルの読み込み・図面配置設定の詳細を解説します。

## JWC/JWWファイルの読み込み設定

[JWC/JWW読み込み設定]でJWC/JWWファイルの読み込み時の設定を行います。  
 ただし、JWC/JWWファイル読み込み時に[JWC/JWW読み込み設定]ダイアログが表示されるのは、  
 [ファイル]-[外部ファイル設定]の[共通]タブで[読み込み設定]ダイアログを開く]のチェックをオンにした場合です。  
 (初期値は、オフです。)

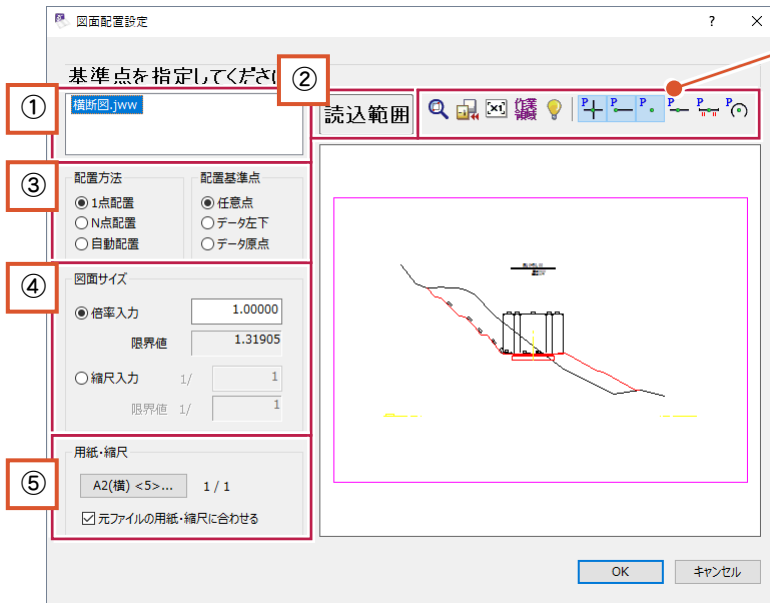


- 1 [レイヤ変換]タブで、[個別指定]を選択します。
- 2 [作業レイヤの名称を上書き]のチェックをオンにします。  
元ファイルで定義された画層を、武蔵ではどのレイヤに割り当てるかを決めます。

- 3 [ペン変換]タブをクリックします。
- 4 [個別指定]を選択します。  
元ファイルで定義されたペンNoを、武蔵ではどのペンNoに割り当てるかを決めます。
- 5 [OK]をクリックします。

## JWC/JWWファイルの図面配置設定

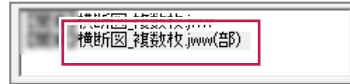
[図面配置設定]で、図面の配置方法、縮尺などを設定します。



用紙の角や、図枠の角をつかむときに「ピックモード」が有効です。

① 横断図\_複数枚.jww 横断図\_複数枚.jww(部) 取り込む図面、あるいは読み込み範囲を選択します。

② 読み込み範囲 複数枚データがある場合、または範囲外に不要なデータがある場合、読み込み範囲を指定します。  
※[読み込み範囲]を指定した図面は“(部)”が付加されます。  
操作は、「03 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A」(P.4)を参照してください。



③ 配置方法 配置を選択します。  
[単独配置]: [配置基準点]で配置基準点1点の指定方法を選択します。  
[N点配置]: [イメージ]で配置基準点を設定します。補正倍率もN点から自動算出します。  
[自動配置]: 用紙系原点(0,0)の位置にデータ左下の位置がくるように配置します。

④ 図面サイズ 図面サイズを設定します。  
[1点配置]の場合は、配置時にインプットバーでも設定可能です。  
[倍率入力]: 図面サイズに対して倍率補正を適用してサイズ補正します。限界値(用紙サイズに対する限界倍率)を目安に図面に配置する倍率を入力します。  
[縮尺入力]: 図面サイズに対して縮尺補正を適用してサイズ補正します。限界値を目安に縮尺を入力します。

⑤ 用紙・縮尺 [用紙設定]ボタン: ボタン名称が、現在表示している用紙になります。ボタンをクリックして表示される[用紙設定]ダイアログで、用紙を選択します。  
[縮尺][元ファイルの用紙・縮尺に合わせる]チェックボックス: 元ファイルの縮尺情報から取得した縮尺を表示します。[元ファイルの用紙・縮尺に合わせる]のチェックがオンのときは、表示されている縮尺が要素の縮尺になります。オフのときは、この表示に関係なく、[入力属性設定]で設定した縮尺が要素の縮尺になります。

# 06 DXF/DWG 読み込みの基本情報

「モデル空間」「レイアウト」「ビューポート」について説明します。

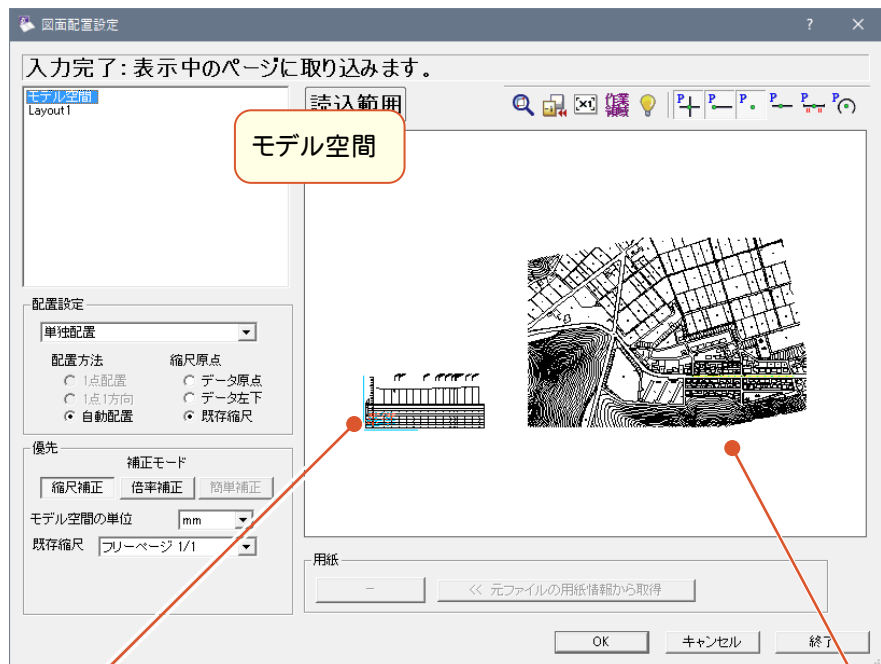
「モデル空間」は実際の大きさ(実寸)で、図面を描く空間で縮尺の概念がありません。

「ペーパー空間」と呼ばれる作業環境で、そのモデルの「レイアウト」を作成できます。

「ビューポート」とは、モデル空間の実寸の図面をレイアウトに持っていくために縮尺をセットした窓枠みたいなものです。レイアウトでは複数のビューポートをセットできますが、縦横異縮尺は、できません。

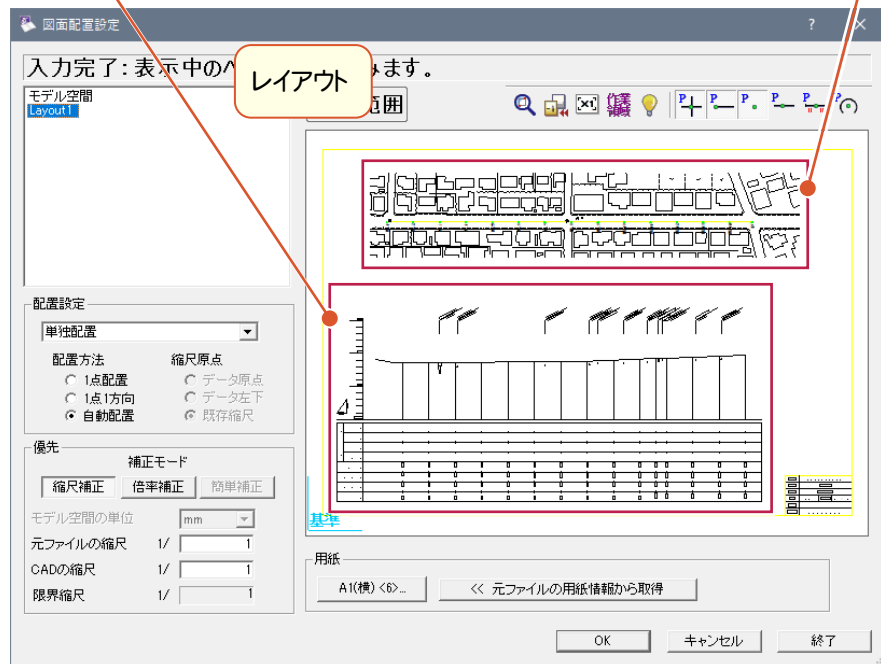
武蔵では、モデル空間をフリーページに、ビューポートを領域として読み込むことができます。

※「03 DXF/DWG の図面読み込み時のQ&A」の「①モデル空間とレイアウト空間を読み込む場合」(P.4)を参照してください。



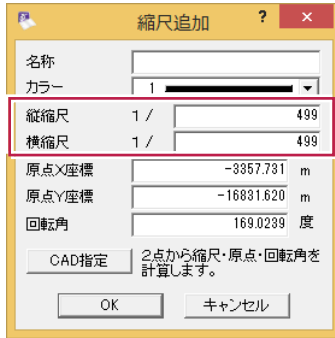
1つ目の「ビューポート」

2つ目の「ビューポート」

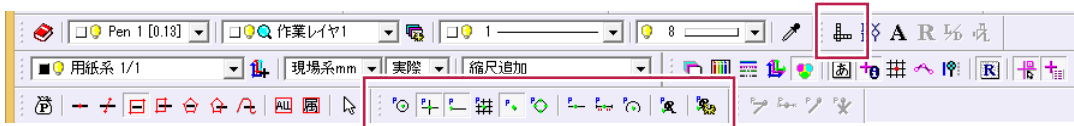


# 07 CAD から縮尺設定した時のQ&A

縮尺が1/499や1/501など半端な値になるときは、次の①②を確認してください。



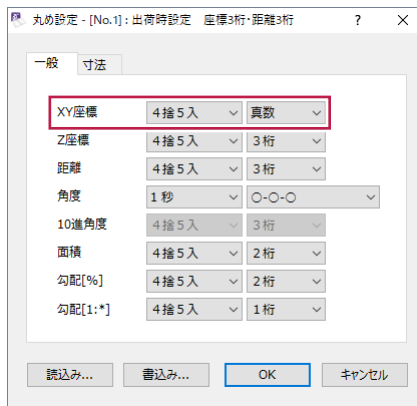
①クリックした座標の位置が違う場合があるので、ドラフタやピックモードなどを確認して指定し直す。



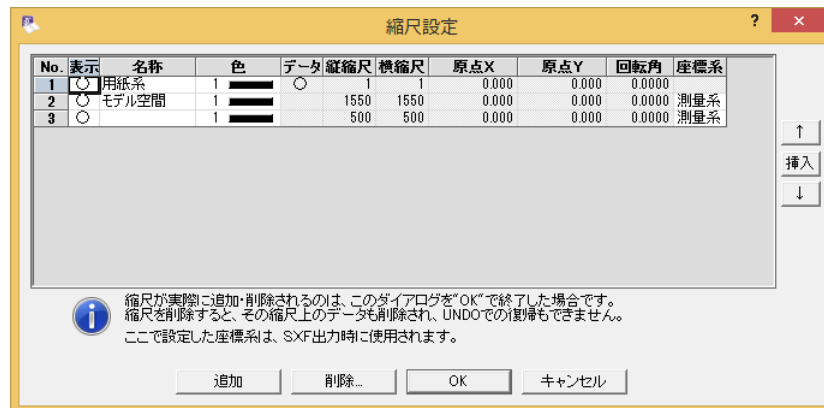
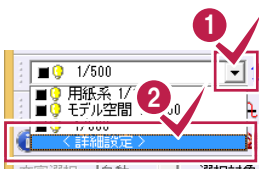
②入力した座標値が違っている場合があるので、確認して、入力し直す。

それでも改善しない場合は、③④⑤を実行してください。

- ③計測指定箇所を変えてみる。
- ④丸めを真数にする。

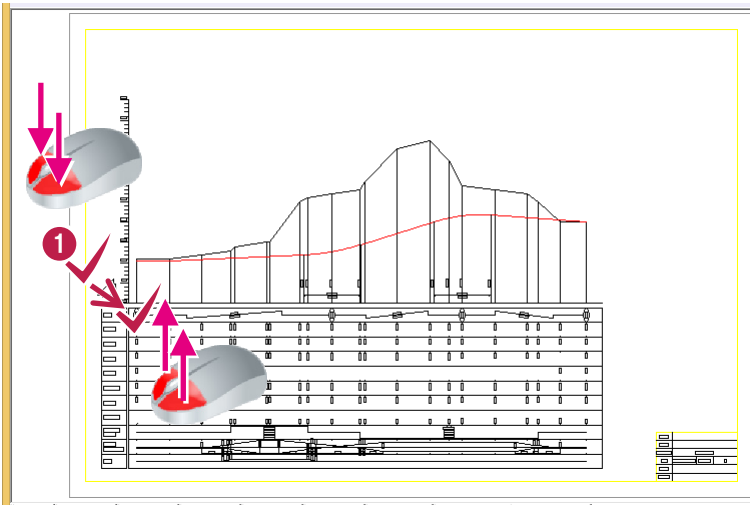


⑤縮尺を変更する。

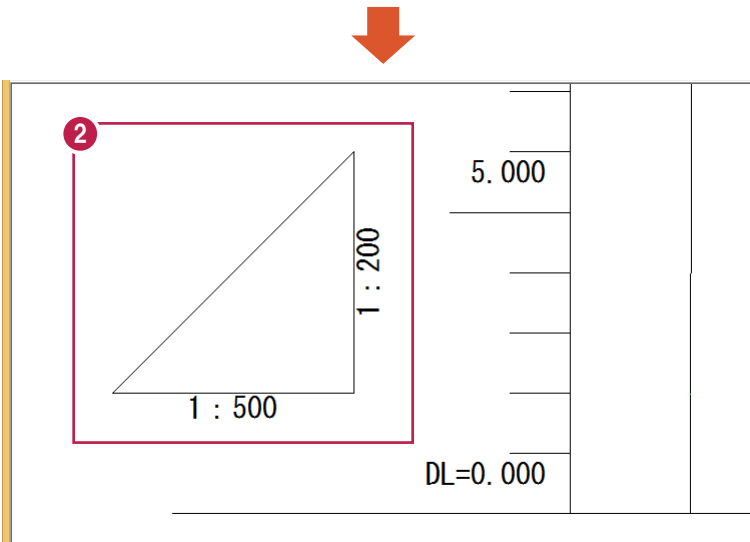


# 08 縦横異縮尺について

AutoCADでは縦横異縮尺の設定はできないので、[縮尺追加]で追加します。



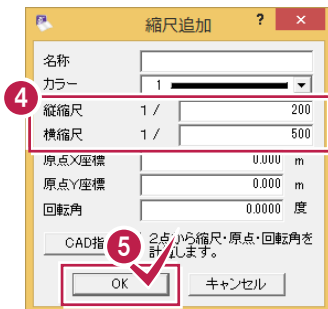
1 図面の縮尺表示部分を両ボタンドラッグで拡大します。



2 図面の縮尺を確認します。

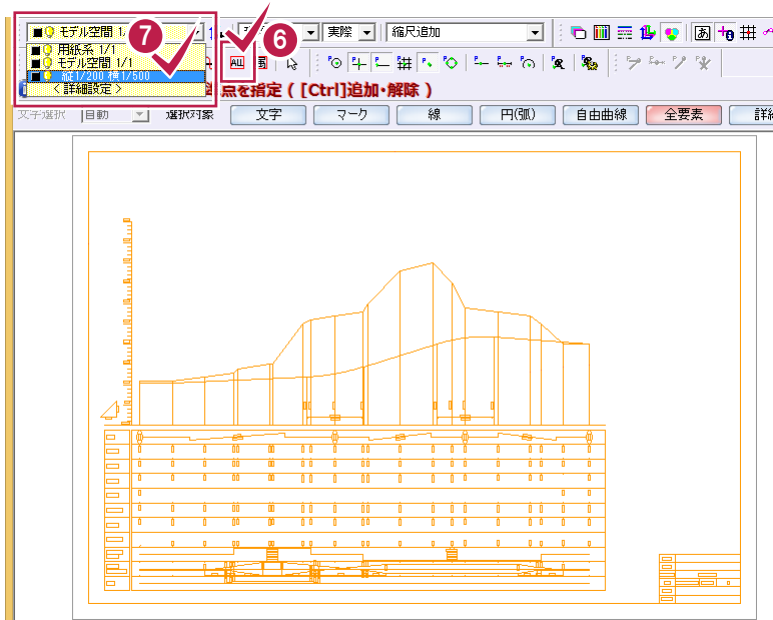


3 [縮尺追加]のアイコンをクリックします。



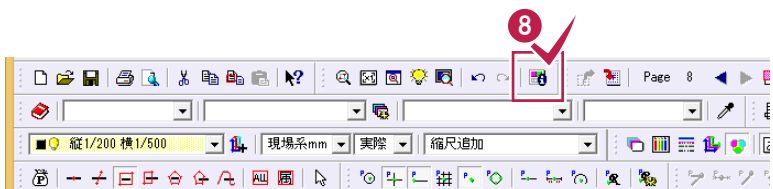
4 [縦縮尺]に「200」、[横縮尺]に「500」と入力します。

5 [OK]をクリックします。

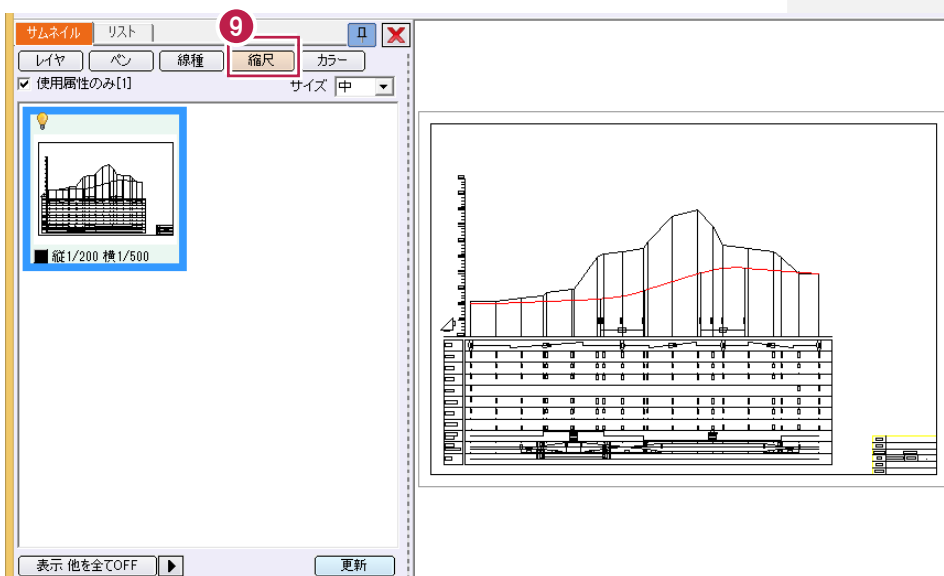


6 [全選択]のアイコンをクリックします。

7 縮尺で、追加した「縦1/200 横1/500」を選択します。



8 [形状表示]のアイコンをクリックします。



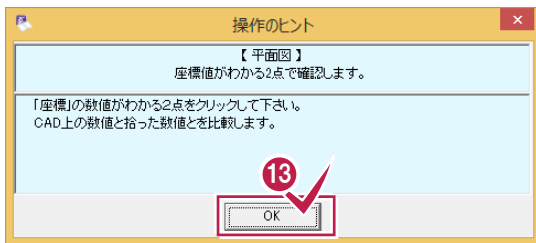
9 表示モードの「縮尺」を選択して、縮尺を確認します。

# 09 発注図(平面図)を開く

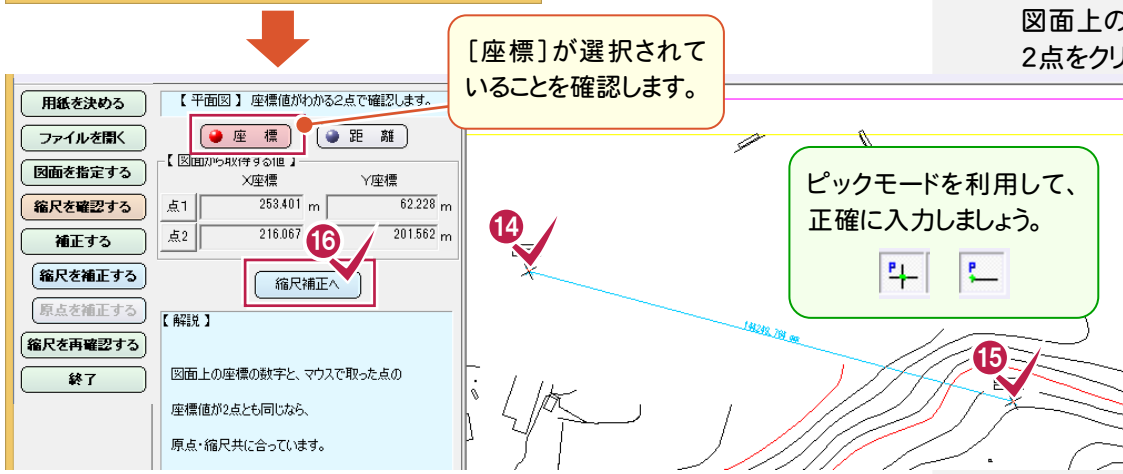
発注図 (DWG/DXF形式、JWC/JWW形式、SXF (p21・sfc) のファイル) を開きます。  
 ここでは、[ファイル]-[発注図を開くガイド]で、「FcApp¥各種資料(土木)¥建設CAD¥入門編(官公庁)のサンプルデータ」フォルダー内の「異縮尺\_サンプル平面図.sfc」を開いてみましょう。

- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [発注図を開くガイド]をクリックします。
- 3 [ファイルを開く]をクリックします。
- 4 [SFC/P21, SFZ/P2Z]をクリックします。
- 5 フォルダを選択します。  
ここでは「FcApp¥各種資料(土木)¥建設CAD¥入門編(官公庁)のサンプルデータ」フォルダを選択します。
- 6 ファイルを選択します。  
ここでは「異縮尺\_サンプル平面図.sfc」を選択します。
- 7 [開く]をクリックします。
- 8 SXFファイルのファイル名、バージョン情報などを確認します。
- 9 [OK]をクリックします。
- 10 [図面を指定する]をクリックします。
- 11 [平面図]をクリックします。
- 12 [縮尺確認へ]をクリックします。





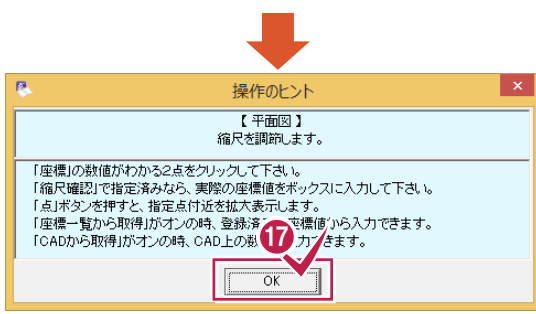
13 [OK]をクリックします。



[座標]が選択されていることを確認します。

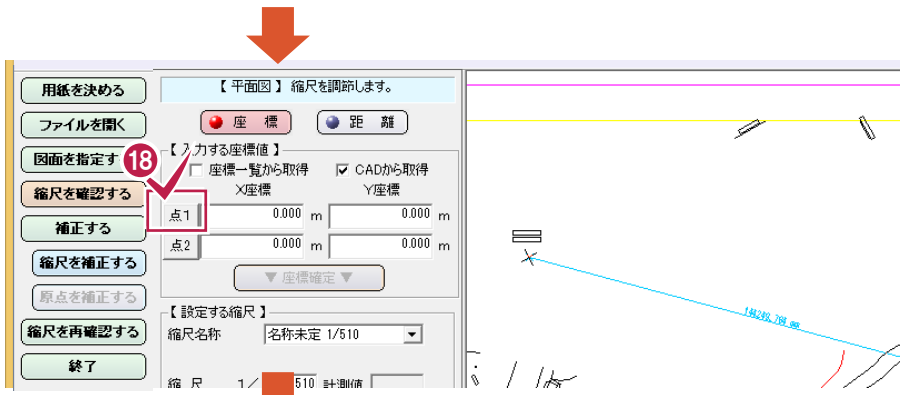
14 15

図面上の座標値のわかる2点をクリックします。

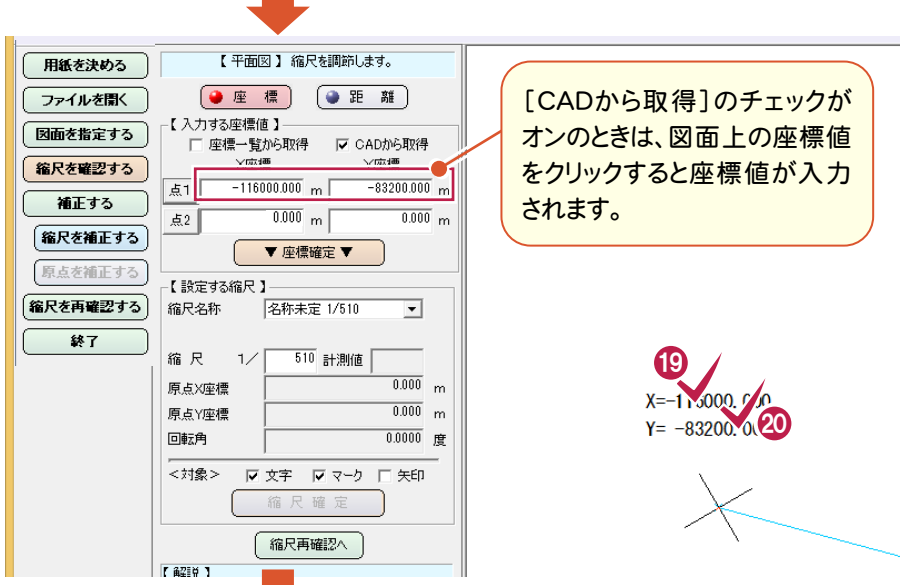


16 ここでは図面上の座標値とマウスで指定した点の座標値が異なるので、[縮尺補正へ]をクリックします。

17 操作のヒントを確認して、[OK]をクリックします。

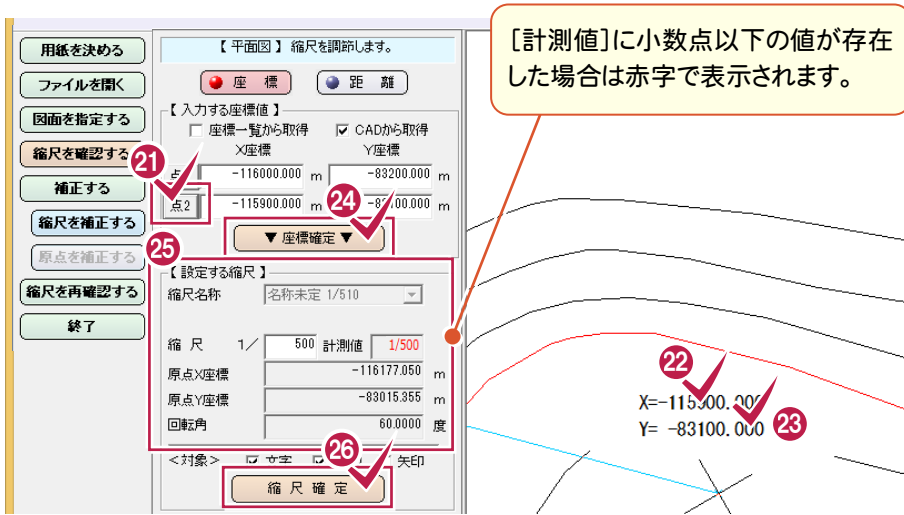


18 ここでは、[点1]をクリックします。



19 20

図面上の座標値をクリックします。



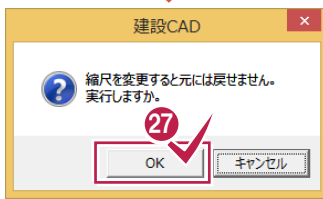
21 22 23

同様に、[点2]をクリックして、座標値を入力します。

24 [座標確定]をクリックします。

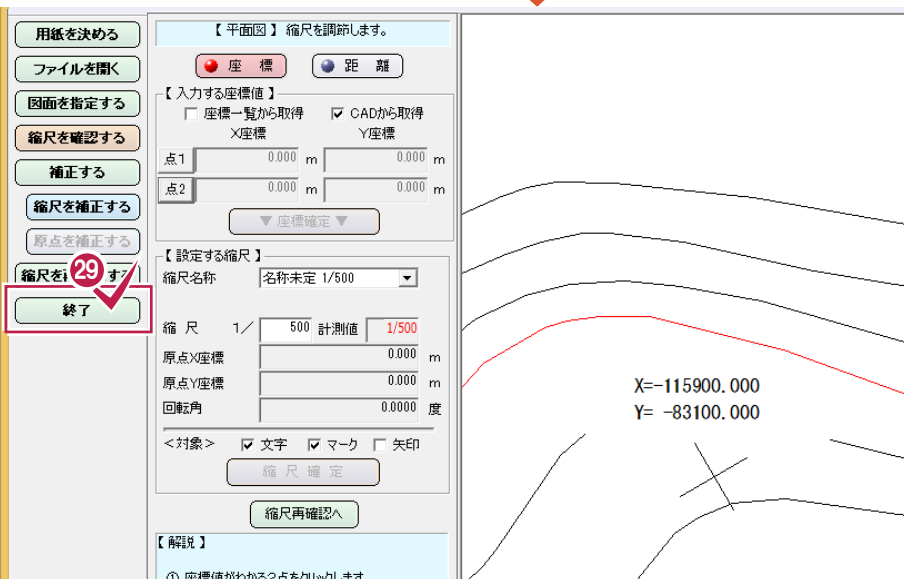
25 変更された縮尺を確認します。

26 [縮尺確定]をクリックします。

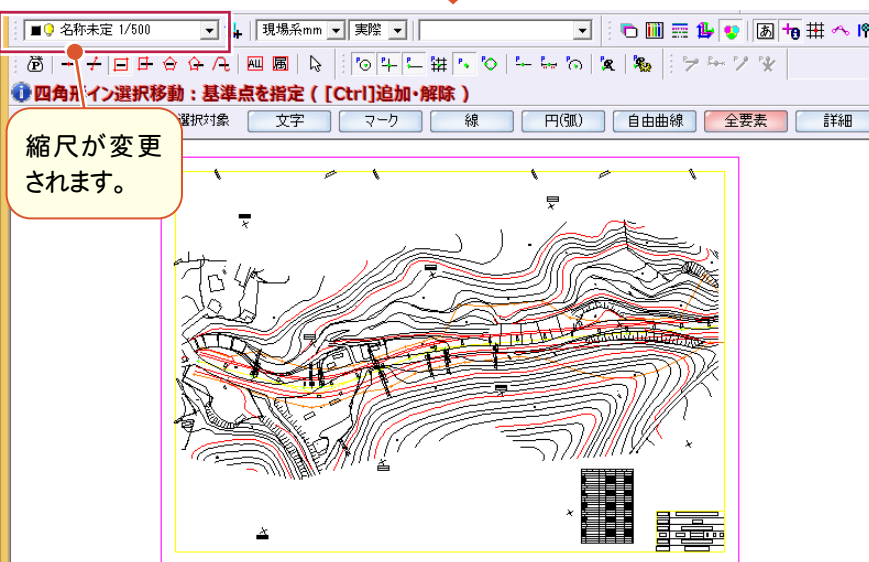


27 [OK]をクリックします。

28 [OK]をクリックします。



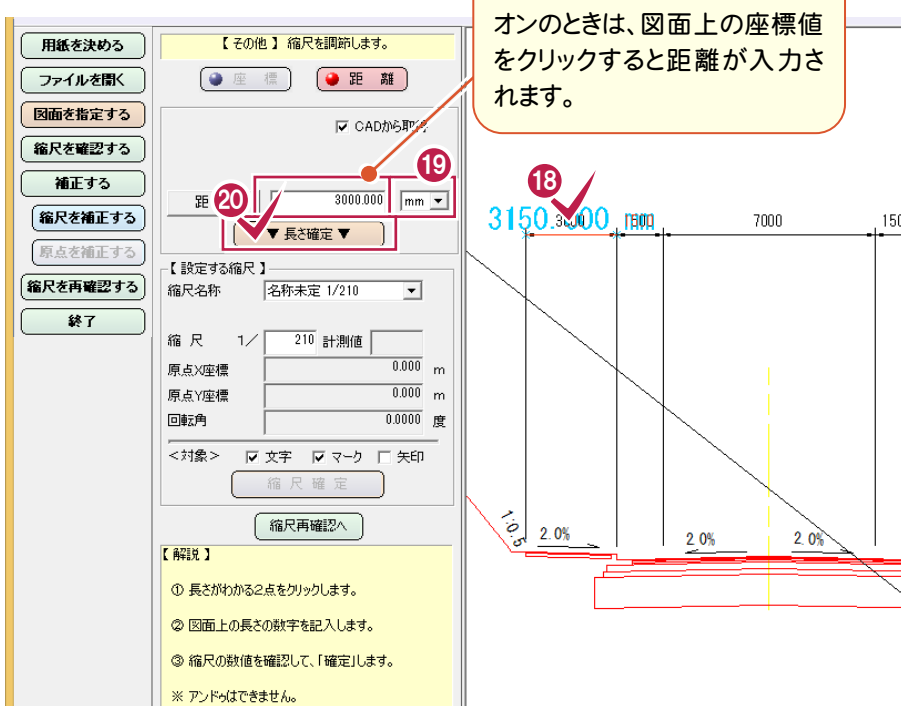
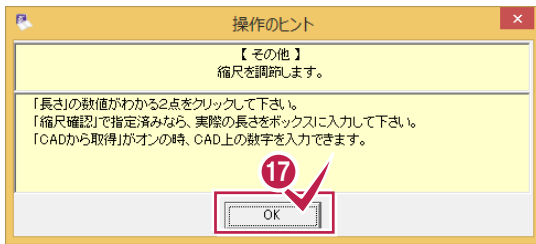
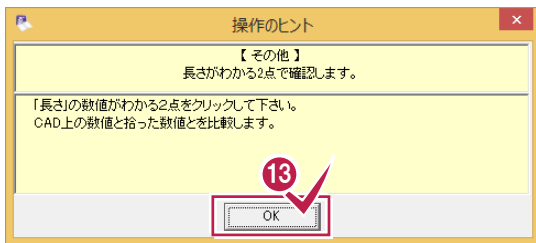
29 [終了]をクリックします。



# 10 発注図(横断図)を開く

発注図(DWG/DXF形式、JWC/JWW形式、SXF(p21・sfc)のファイル)を開きます。  
 ここでは、[ファイル]-[発注図を開くガイド]で、「FcApp¥各種資料(土木)¥建設CAD¥入門編(官公庁)サンプルデータ」フォルダー内の「異縮尺\_サンプル横断図.sfc」を開いてみましょう。

- 1 [ファイル]をクリックします。
- 2 [発注図を開くガイド]をクリックします。
- 3 [ファイルを開く]をクリックします。
- 4 [SFC/P21, SFZ/P2Z]をクリックします。
- 5 フォルダーを選択します。  
ここでは「FcApp¥各種資料(土木)¥建設CAD¥入門編(官公庁)のサンプルデータ」フォルダーを選択します。
- 6 ファイルを選択します。  
ここでは「異縮尺\_サンプル横断図.sfc」を選択します。
- 7 [開く]をクリックします。
- 8 SXFファイルのファイル名、バージョン情報などを確認します。
- 9 [OK]をクリックします。
- 10 [図面を指定する]をクリックします。
- 11 [その他(横断図、構造図など)]をクリックします。
- 12 [縮尺確認へ]をクリックします。



13 [OK]をクリックします。

14 15 図面上の長さがわかる2点をクリックします。

16 ここでは、図面上の長さとしてマウスで指定した点の長さが異なるので、[縮尺補正へ]をクリックします。

17 操作のヒントを確認して、[OK]をクリックします。

18 図面上の長さをクリックします。

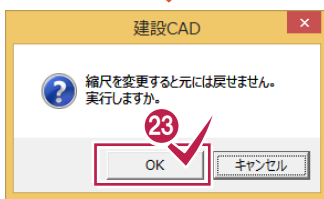
19 「mm」を選択します。

20 [長さ確定]をクリックします。



21 変更された縮尺を確認します。

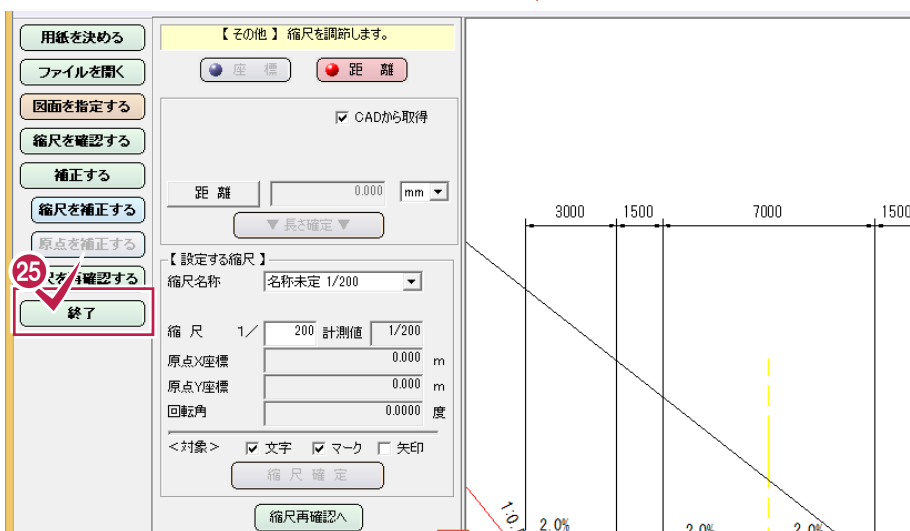
22 [縮尺確定]をクリックします。



23 [OK]をクリックします。



24 [OK]をクリックします。



25 [終了]をクリックします。

